







東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

[illegible]

概要図

特記事項	<div><div>テクノ工機一般建築士事務所</div><div></div></div>	業務名称 東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務	工事名称 東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事	<div><div>東京大学</div><div><div>佐</div><div>青</div><div>国</div><div>須</div></div></div>
		図面名称 表紙・図面リスト	作成年度 令和8年度	縮尺 — A3

東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修機械設備工事

I 工 事 概 要

1. 工事場所 東京都文京区弥生 2-11-6（東京大学構内）

2. 完成期限 令和 8 年 11 月 30 日（月曜日）

3. 建物概要

建 物 名 称	超高圧電子顕微鏡室
工 種	改修
構造	R C 造
階 数	地下1階、地上2階
建築基準法による	建築面積 (㎡) 219.50
	延べ面積 (㎡) 642.50
消防法施行令第1条第1項の区分	-
改修面積 (㎡)	642.50
建物使用の有無	有
備考	

4. 工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

建物別及び屋外	工	事	種	別
工 事 種 目	超高圧電子顕微鏡室	屋 外		
●空気調和設備	一式			
●換気設備	一式			
○排煙設備				
●自動制御設備	一式			
○衛生器具設備				
○給水設備				
○排水設備				
○給湯設備				
○消火設備				
○ガス設備				
○医療ガス設備				
○搬送設備				
●撤去工事	一式	一式		

5. 指定部分 ●無 ○有 対象部分（指定部分工期（ ））

6. 概成工期 ●無 ○有 令和 年 月 日（ 曜日）
（第1編1.1.2）（第1編1.1.2）

7. 設備概要（●印の付いたものを適用する）

方式及び種別	設 備 概 要
空調方式	●パッケージエアコン
換気方式	●全熱交換ユニット、送風機、排風機
給水方式	○加圧給水方式（構内給水分岐）
排水方式	○建物内合流式
給湯方式	○個別給湯方式
消火設備	
ガスの種類	○

II 工 事 仕 様

1. 共通仕様

（1）東京大学工事請負契約要領別記第1章の工事請負契約基準、現場説明書、図面 及び本特記仕様書 3 枚によるほか、●印の付いたものを適用する。

●公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「標準仕様書」という。）

●公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）

●公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「標準図」という。）

●文部科学省機械設備工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科仕様書」という。）

●文部科学省機械設備工事標準図（特記基準）（令和31年版）（以下「文科標準図」という。）

●公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）（以下「標準仕様書」という。）

●公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）

●公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和7年版）（以下「標準図」という。）

●文部科学省電気設備工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科仕様書」という。）

●文部科学省電気設備工事標準図（特記基準）（令和4年版）（以下「文科標準図」という。）

●工事等真価影響額（令和5年9月）

（2）建築工事及び電気設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
なお、建築工事の特記仕様書は（ ）図、電気設備工事の特記仕様書は（ ）図による。

2. 特記仕様

（1）本特記仕様書の表記

1）項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。

2）項目に記載の〔第 編 . . . 〕内表示番号は、標準仕様書の該当項目番号を示す。

3）項目に記載の〔第 編 . . . 〕内表示番号は、改修標準仕様書の該当項目番号を示す。

4）項目に記載の<第 編 . . . >内表示番号は、文科仕様書の該当項目番号を示す。

章 項 目 特 記 事 項

●適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
●風圧力 風速（V= 34 m/s）
●地表面粗度区分（Ⅲ）
●積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表（ 24 ）

この工事現場に、下記のいずれかの電気保安技術者を選任する。

項 目 名	電気保安技術者
1. 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	●
2. 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	●
3. 電気主任又はこれに相当する職務に就いて、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に關する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	●
4. 旧電気工事技術者認定規則による高压電気工事技術者の修得と合格した者	●
5. 公益事業用又は通商産業局長の指定を受けた高压試験に合格した者	●
6. 第1種電気工事士の資格を有する者	●
7. 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	●
8. 第2種電気工事士の資格を有する者	●
9. 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の修業年限が4年以上の課程に在学中の者として一般電気工事（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	●

工事用電力を機から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

●施工条件

（第1編1.3.3）
〔第1編1.3.3〕

この工事現場では、次の施工条件による。
・本工事は近隣住宅に配慮し、騒音・振動を伴う工事については、工程・安全対策、業者等を監督職員と事前に協議すること。
・工事車両動線・資材置き場・現場事務所・その他については、監督職員と協議の上決定する。
・工事に既存建物・構品等に汚損を生じさせた場合は、受注者の負担で復旧を行うこと。

●環境への配慮

（第1編1.4.1）
〔第1編1.4.1〕

（1）本工事に於いて、「国策による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第10号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月閣議決定）」に定める特定調達品目分野の「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。
（2）建築物内部に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
①含鉛、木質アセロリング、構造用アルミ、金属材料、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生量が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放放量」の区分に応じた材料を使用する。
②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチル-n-キール等を含有しない難燃発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④①の材料を使用した家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生量が極めて少ない材料を使用したものとする。
（3）設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放放量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建筑材料以外の材料
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建筑材料
④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
（4）機器の性能は建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）に基づいた性能基準を満たすものとする。

●機材の品質等

（第1編1.4.2）
〔第1編1.4.2〕

○機材の検査等 機材の検査に伴う試験

機 材 名	検 査 試 験	備 考
	○ ○	
	○ ○	
	○ ○	

〔第1編1.4.5~6〕
〔第1編1.4.5~6〕

●施工調査

〔第1編1.5.1~3〕

○別途 調査内容

●既存資料調査 ●現場調査

調査項目 ○図示 ●本工事範囲及び影響箇所

調査範囲 ○図示 ○

調査方法 ○図示 ○

下記の職種及び作業に適用する。

●配管（配管工事） ●建築板金（ダクト製作及び取付）

●絶縁縁施工（保温工事） ●冷凍空調と機器施工

下記の施工部分は、監督職員の検査・立会い・検査に伴う試験を受ける。

施 工 部 分	検 査 立 会 試 験	備 考
隠蔽部分	● ○ ○ ○	○ 隠蔽前検査
	○ ○ ○ ○	

○技術検査

（第1編1.6.2）
〔第1編1.7.2〕

工事完成後提出する完成図等の種類及び提出部数は下記による。

名 称	体 裁 等	部 数
○完 成 図	見開きA1複製本	1
●完 成 図	見開きA2複製本	3
○施 工 図	見開きA1複製本	1
●施 工 図	見開きA2複製本	3
●完 成 図 書	黒厚表紙金文字入り製本、電子媒体（PDF）	2
・完成図（A3折）		
・機器完成図		
・各種試験成績書		
・機器取扱説明書		
・保全指導書		
・関係官庁届出書（写）		
・Tn/Fn/E/F表（写）		

○電子媒体 ●紙媒体（ファイル綴じ）

○CADデータ（●要 ○不要）
jww_dxf.pdf

貸与する設計図のCADデータ著作権社名： ファイル形式：
貸与条件 貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成の為以外に使用しないこと。

提出方法：
下記に示す機器及びシステムについては、当該機器又はシステムを運用する職員に対しその機能、操作の説明、保守点検の要領及び障害時の対策等を説明するものとする。
●設備台帳（EXCELファイル）を提出すること。
●フロア排出抑制法に伴う機器管理台帳及び冷媒漏洩点検・整備記録簿を提出すること。

図面に特記なき場合は、工事区分表による。

換気扇、圧力罩及び標準仕様書に記載なき特記のないものの電動機保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。

●50Hz ○60Hz

（1）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
（2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。

●本工事 ○別途 調整事項（調整箇所等は監督職員の指示による。）

●風量調整 ○水量調整 ●室内外空気の温度の測定

●室内気流及び塵埃の測定 ●騒音の測定 ○飲料水の水质の測定

○雑用水の水质の測定 ●ドレン排水

●原契約の関係受注者が指定したものは無償で使用できる。
●本工事で設置する（図参照）
「手すり先行工法」に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」における2の②手すり据置方式又は③手すり先行専用足場方式により行う。

●足場その他

（第2編4.1.1）
〔第1編2.2.1~3〕

○埋め戻し土・盛土

○根切り土の良質土 ○山砂の類

地中配管の周囲には山砂の類を施すこと。

○建設発生土の処理方法

（第2編2.7.1~3）

（1）地中埋設機 ○要（図示による） ○不要

（2）埋設設備タイプ ○要（排水管を除く） ○不要

●耐震措置

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて建築設備耐震設計施工指針2014年版（独立行政法人建築研究所監修）による。
（1）機器の据付け及び取付け
設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）に、地域係数...及び次に示す設計用標準水平地震量を乗じたものとする。

機器種別	設計用標準水平地震量		○特定の施設		●一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び設備	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0
中間階	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0
	1.5	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6
地階・1階	1.5	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6
	1.0	0.6	0.6	0.6	0.4	0.4
地下階・1階	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6
	1.5	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6

・上層階とは2～7階建の場合は最上層、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を数え、各階で上層階に該当しないものを「水槽類」はオイルタンクを含む。
・重要機器は次にによる。
消火等の防災機能を果たす設備機器

（2）設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。
（3）吊りボルト等で吊り下げる機器は1m以上となる場合、全て振れ止めを行うこと。

（1）ステンレス鋼管の接合は、下記による。
（2）溶接部の非破壊検査 ○不要 ●要
（3）耐火二層管は各階立管に1箇所、伸縮継手を設置すること。

●配管

（第2編第2章）
〔第2編第2章〕

<第2編1.1.1>
<第2編2.1.1>

○絶縁継手

（第2編2.2.12）
〔第2編2.2.1.1〕

●試験

（第2編2.9.1~5）
〔第2編2.9.1~7〕

●保温

（第2編3.1.1~6）
〔第2編3.1.1~3〕

●塗装

（第2編3.2.1）
〔第2編3.2.1〕

●電線の色別

（第2編1.1.3）
〔第2編1.1.4）
〔第2編2.1.4〕

給水、給湯、開放系の冷温水及び冷水機器接続部の金属材料と配管材料のイオン化傾向が大きく異なる場合（銅とステンレス、銅と鋼）は絶縁継手を使用し絶縁を行うものとする。

既設配管を含む部分の試験●要（方法及び圧力：過水試験 ○不要

標準仕様書第2編によるほか次にによる。ただし、各工事種目で別に指定されたものは除く。
○多量箇所は下記による。
○共同構内の保温種別は下記による。

次の露出配管は、塗装又は記載の仕上仕とする。
●屋外：金属風管 ○指定色塗装
○指定色塗装
●配管架台 ●溶融亜鉛付仕上付
●ベントキャップ ●指定色塗装
●屋内：排気ダクト ●指定色塗装 ○

配線及び主回路の導体の色別は、次にによる。
○標準仕様書による。

電気方式	第1相	第2相	第3相	中性相
高圧 三相3線式	赤	白	青	
低圧 三相3線式	赤	接地点 白	黒	
	三相4線式	赤	青	黒
低圧 三相2線式	赤（青）	接地点 白		
単相3線式	赤	青		白
直流2線式	青	白		

（1）分岐回路の色別

（2）発電回路の第2相 接地側の電線の色は黄色とする（無電圧回路含む）

（3）切替回路の2次側 規定しない。

（4）漏電遮断器回路の接地 専用接地線とした時の接地線は、監督職員と協議し、一時の接地線と色別を区別する。

共通事項

配線（1）～（4）による。

分電盤類

左右・上下及び近隣の「ア」の右側の、左からとすると、
左側の、正面前から見た状態
左の上下の別は、上からとし、直流2線式は、下からとする。
右の上下の別は、近いほうからとし、直流2線式は、遠いほうからとする。

備考

（a）配電盤類については、次にによる。
（1）左側、正面の別は、各配電部分における主となる機器類の操作側又はこれに連する側から右から状態とし、分電盤類に於ける（2）三相3線式の相別は、第1相、第2相、第3相の順に相回転するものとする。（3）三相交流の相別は、第1相、第2相、第3相の順に相回転するものとする。（4）接地線及び接地の色は、監督職員の指示に従うこと。

穿孔絶縁管を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探針により電源供給が停止できる所を確認後、専用工具にて穿孔を行うこと。
●はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に下記の方法により埋設物調査を行い、監督職員に報告する。
○走査式埋設物調査
●放射線透過検査

テクノエッジ 一般電気工事事務所

業務名称

東京大学工学部超高圧電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称

東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修機械設備工事

図面名称

特記仕様書（1）

作成年度

令和8年度

縮 尺

— A3

図面番号

特 - 01

東京大学

（佐） （青） （密） （須）

概要図

工事区分表

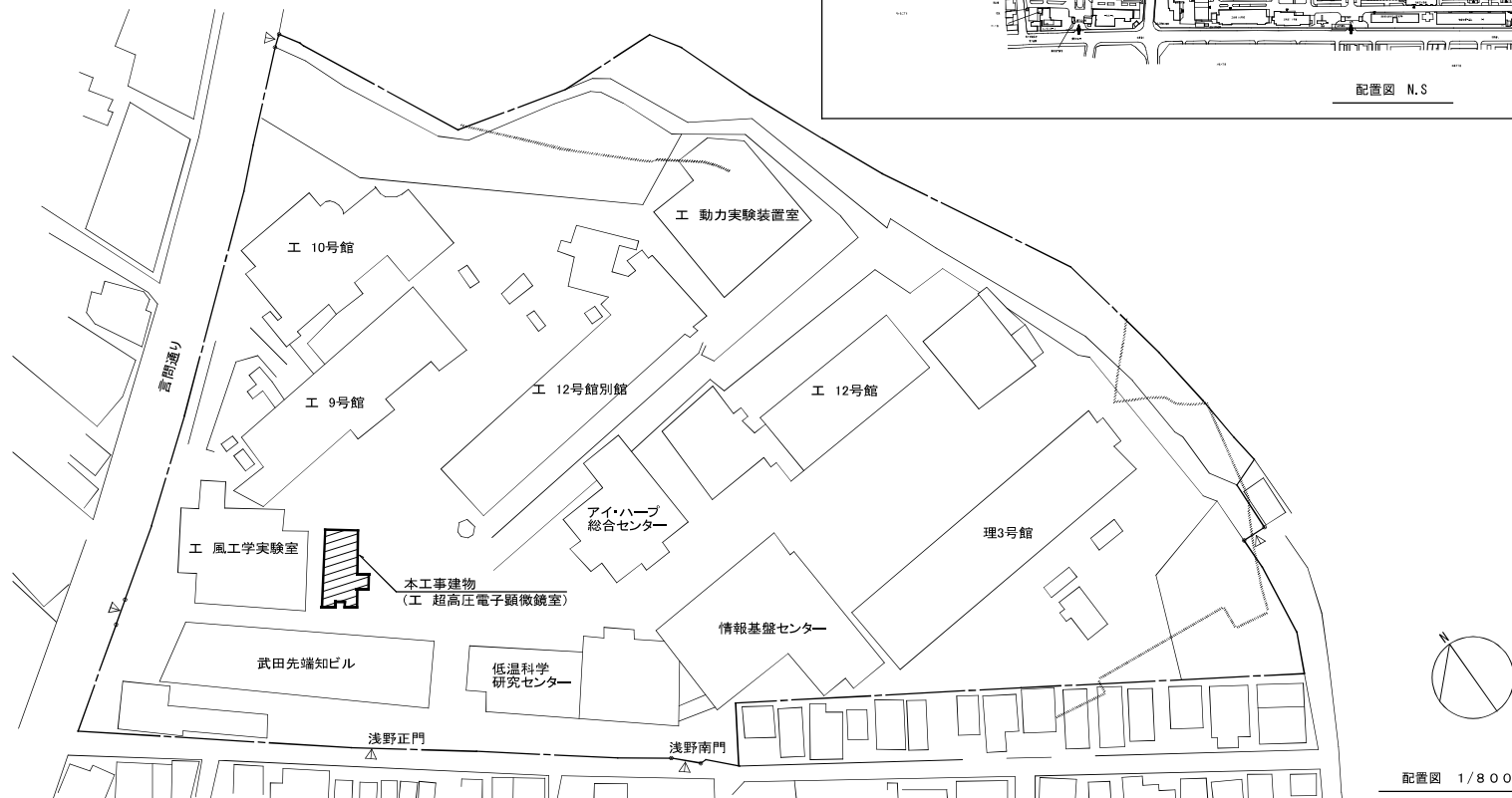
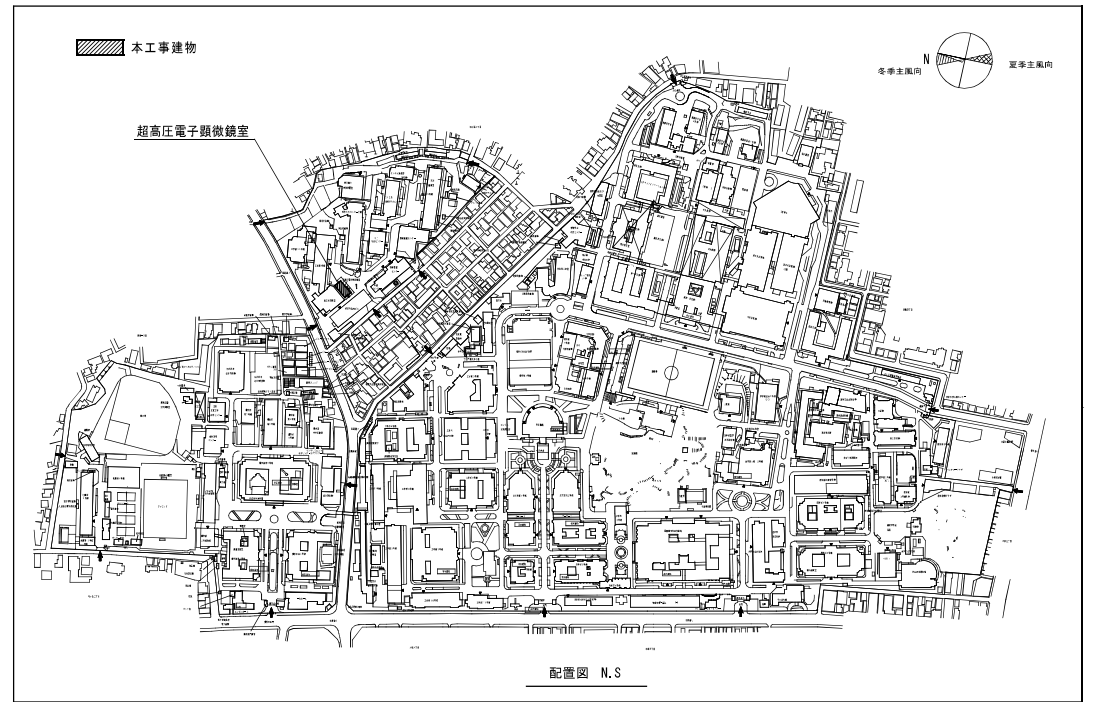
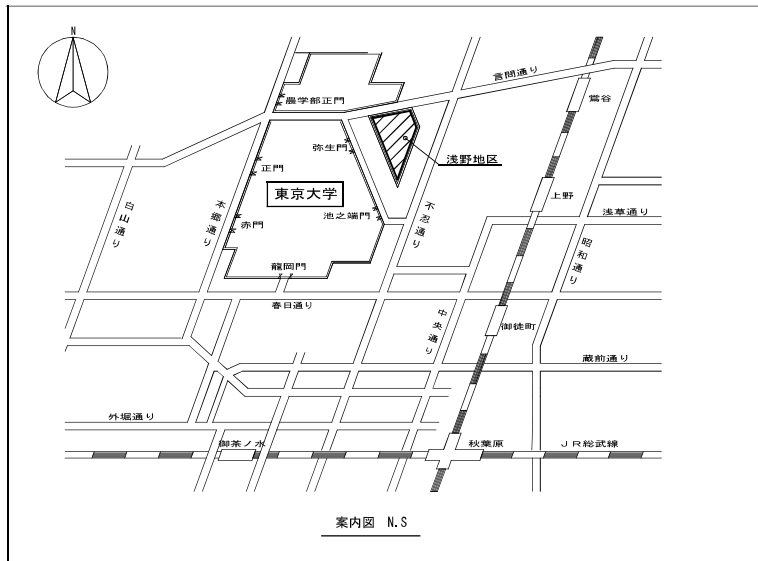
1. ●印の付いたものを適用する。
2. ●が重複する項目は、それぞれの区分が必要とする工事を自ら行う。

区 分		建	電	機	備 考
項 目	名 称	架	気	械	
コンクリート穴あけ	梁、壁木製型枠入	●	●	●	墨出しは各工種
"	壁スリーブ入れ	●	●	●	仕上げは建築工事
"	床スラブ木製型枠入	●	●	●	墨出し、補修除く
"	床スラスリーブ入れ	●	●	●	
同上開口部補強	鉄筋切断及び補強筋入れ	●	●	●	
配管ダクト類の防水貫通部補修	鉄筋切断及び補強筋入れ	●	●	●	
A・L・Cパネルの穴あけ、補修	ダクト等の貫通部	●	●	●	
PC版の穴あけ	スリーブ入れ	●	●	●	
同上補修		●	●	●	
インサート	PC版	●	●	●	
インサート	コンクリート床	●	●	●	
天井点検口	点検口取付及び、開口部補強	●	●	●	ボード切込、墨出し共
軽量鉄骨下地開口部墨出し	電気設備関係開口部	●	●	●	
"	機械設備関係開口部	●	●	●	
軽量鉄骨下地開口部補強	天井及び壁、ボード切開	●	●	●	
開口補強を必要としないボード等の切開		●	●	●	
特殊柱上材の天井、壁、床に取付ける壁具等の穴あけ加工		●	●	●	
壁等重量物の下地補強	露出形器具取付用	●	●	●	
床点検口	点検口取付及び、開口部補強	●	●	●	墨出し共
防火区画貫通部補修		●	●	●	
機器・配管取付後の壁、床等の補修		●	●	●	
流し台、ミニキッチン本体、水切	ステンレス製（含む排水金具）	●	●	●	
同上用配管接続	給排水用	●	●	●	
流し台	陶器製	●	●	●	
洗面器等取付化粧板		●	●	●	
ルーフドレン		●	●	●	
整地	防塵工事共	●	●	●	
雨水排水管	第1種から排水幹線までの配管	●	●	●	
"	幹線の配管	●	●	●	
生活排水、実験排水管	建物及び第1種までの配管	●	●	●	
"	第1種から排水幹線までの配管	●	●	●	
"	幹線の配管	●	●	●	
大型機械基礎		●	●	●	
同上基礎上鉄骨架台		●	●	●	
機器用アンカーボルト	ボイル等機械設備関係機器	●	●	●	墨出し、型枠入れ共
一般機器類の基礎	自家発電機等電気設備関係機器	●	●	●	墨出し、型枠入れ共
屋外自立型の基礎	仕上げ共	●	●	●	
埋め貯油槽	地下式	●	●	●	
共同溝	歩床コンクリート	●	●	●	
建物、共同溝接続トレンチ		●	●	●	
同上接続部止水板		●	●	●	
各種槽類	コンクリート製	●	●	●	
"	S・U・S、FRP、鋼製	●	●	●	
"	屋外大型のもの基礎	●	●	●	
"	屋上設置のもの基礎	●	●	●	
換気扇取付	ダクトのあるもの	●	●	●	
"	壁、サッシ等への取付（材共）	●	●	●	
同上用スイッチ		●	●	●	
同上用電源配線		●	●	●	
同上用枠、取付板等	木製、アルミ製、鉄製	●	●	●	
全数交換用		●	●	●	
同上用スイッチ		●	●	●	
外壁取付ガラリ	給排気用	●	●	●	
内壁取付ガラリ		●	●	●	
ガラリへの給排気ダクト接続		●	●	●	ガラリチャンバーは建築工事
検知器警報通動防火戸		●	●	●	
同上用リリース	配管配線、ボックス共	●	●	●	
同上用濃感知器	リリース及びリリースまでの配管配線共	●	●	●	
排煙防火ダンパー	リリース取付まで①	●	●	●	
煙感知器通動シャッター	リリース取付まで②	●	●	●	
煙感知器通動防煙垂れ壁	リリース取付まで③	●	●	●	
上記①～③用濃感知器	リリースまでの配管配線共	●	●	●	

区 分		建	電	機	備 考
項 目	名 称	架	気	械	
遮断機用排水	し型・ひ型と管敷設	●	●	●	
制御室	制御室以降の配管、配線共	●	●	●	
同上用電源配線	1次側接続まで	●	●	●	接地共
屋内消火栓	消火ポンプ、制御室	●	●	●	
屋内消火栓起動リレー		●	●	●	
同上表示灯及び起動装置		●	●	●	
自動火災報知器		●	●	●	
連結排水口	座板共	●	●	●	
独立煙突		●	●	●	
同上煙道	鋼板製	●	●	●	
同上常保護設備		●	●	●	
配管配線用ビット		●	●	●	
盤、配管、ダクト、配線用の二重床開口	フリーアクセスフロア等	●	●	●	
コンクリートシャフト		●	●	●	
点検口		●	●	●	
天井フック		●	●	●	
機械室、電気室の防音遮音処理		●	●	●	
特殊サイズ鏡		●	●	●	
化粧用洗面槽	鏡、化粧カウンター除く	●	●	●	
電保護設備		●	●	●	
保守管理用タラップ、はしこ		●	●	●	
室内テレビ用吊金物		●	●	●	
テレビアンテナ	取付共	●	●	●	
同上用基礎		●	●	●	
ダリストラップ及びガソリントラップ	コンクリート製 ステンレス鋼板製	●	●	●	
電動シャッターの配管配線	二次側、操作盤、押取取付共	●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	●	●	●	
自動扉の配管配線	二次側	●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	●	●	●	
電気伝導作盤	読取設置共	●	●	●	
同上配管配線		●	●	●	
電気伝	配管配線、接続ボックスまで	●	●	●	
同上用配管配線	操作盤～接続ボックスまで	●	●	●	接続共
中央監視装置本体	関係機器、警報機警報配線を含む	●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	●	●	●	
同上用信号線	各メーターから装置まで	●	●	●	接続共
ユニットバス本体	取付共	●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで、SWの取付配線共	●	●	●	
同上用配管	接続まで	●	●	●	
冷蔵庫、冷凍、恒温恒湿、シールド、防音	現場製作	●	●	●	
無音室等の内装		●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	●	●	●	
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共	●	●	●	
同上用配管	接続まで	●	●	●	
冷蔵庫、冷凍、恒温恒湿、シールド、防音	フレハブ型	●	●	●	
無音室等の内装		●	●	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	●	●	●	
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共	●	●	●	
同上用配管	接続まで	●	●	●	
変生、種子吹付け		●	●	●	
法枠、モルタル吹付け		●	●	●	
コンクリート擁壁		●	●	●	
植栽		●	●	●	
トイレパッキング		●	●	●	

区 分		建	電	機	学	備 考
項 目	名 称	架	気	械	部	
机、椅子、棚		●	●	●	●	
連結椅子		●	●	●	●	
OA机、ラック		●	●	●	●	
教壇、教卓		●	●	●	●	
作業台		●	●	●	●	
実験台（配管等工事あり）		●	●	●	●	
実験台		●	●	●	●	
黒（白）板、掲示板		●	●	●	●	
電動スクリーン		●	●	●	●	
暗幕		●	●	●	●	
スライディングウォール		●	●	●	●	
ローバーディンション		●	●	●	●	
カウンタ―	（形態による）	●	●	●	●	
ガス台		●	●	●	●	
応接セット		●	●	●	●	
ベッド		●	●	●	●	
吊り戸棚		●	●	●	●	
サイン、案内板		●	●	●	●	
ブラインド		●	●	●	●	
カーテン		●	●	●	●	
消火器		●	●	●	●	
書架、書庫		●	●	●	●	
精算書架	（面積計上）	●	●	●	●	
業務書架		●	●	●	●	
展示パネル、展示ケース		●	●	●	●	
展示パネル、展示ケース		●	●	●	●	
テレビ、ビデオ		●	●	●	●	
視聴覚機器、OHP、プロジェクタ		●	●	●	●	
冷蔵庫、冷凍庫		●	●	●	●	
低温室		●	●	●	●	
ストープ、除湿器		●	●	●	●	
空調機、F・F暖房機		●	●	●	●	
ウォータークーラー		●	●	●	●	
蛍光灯スタンド		●	●	●	●	
電話機		●	●	●	●	
放送設備（建物全体に係る）		●	●	●	●	
放送設備		●	●	●	●	
テレビ共聴設備		●	●	●	●	
漏洩し器		●	●	●	●	
入室管理システム、監視カメラ		●	●	●	●	
入室管理システム、監視カメラ	配管まで	●	●	●	●	
ブックディテクションシステム		●	●	●	●	
ブックディテクションシステム		●	●	●	●	
ドラフトチャンバー		●	●	●	●	
クリーンベンチ、安全キャビネット	（配管等あり）	●	●	●	●	
クリーンベンチ、安全キャビネット	（配管等なし）	●	●	●	●	
オートクレーブ		●	●	●	●	
オートクレーブ		●	●	●	●	
飼育ゲージ、水槽		●	●	●	●	
飼育ゲージ、水槽		●	●	●	●	
排水製造装置		●	●	●	●	
滅菌箱		●	●	●	●	
滅菌装置		●	●	●	●	
真空照射・音響・乾燥・焼成設備	（屋内運動場は対象外）	●	●	●	●	
真空照射・音響・乾燥・焼成設備		●	●	●	●	
滅菌装置		●	●	●	●	
水質自動監視装置		●	●	●	●	
水質自動監視装置		●	●	●	●	

概要図

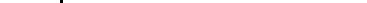




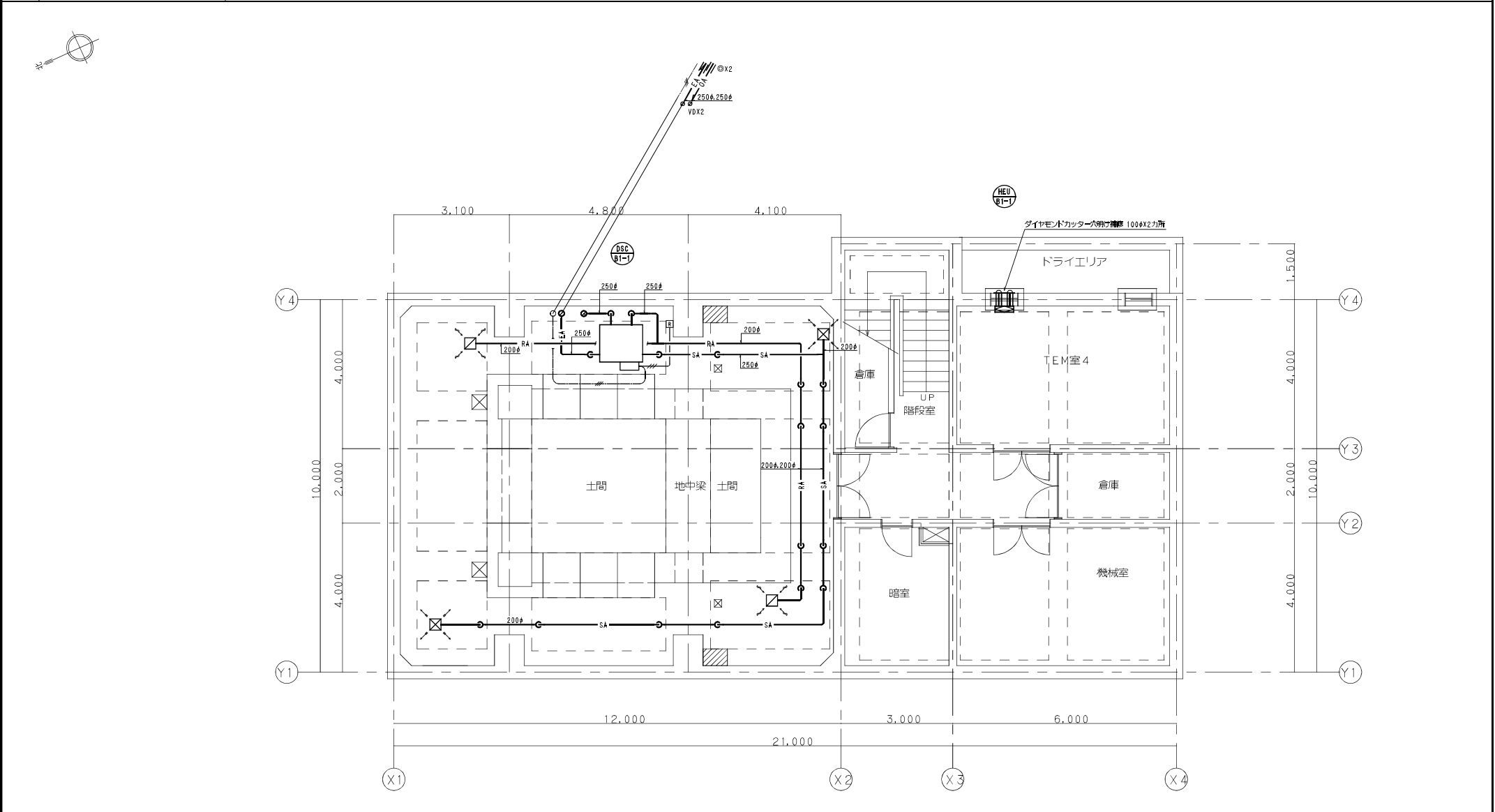
概要図

<p>特記事項</p>	<p>テクノエ 一級建築士事務所</p>	<p>業務名称 東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務</p>	<p>工事名称 東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事</p> <p>図面名称 案内図・配置図</p>	<p>東京大学</p> <p>作成年度 令和8年度</p> <p>縮尺 1/800 A3</p> <p>図面番号 M-02</p>
-------------	-----------------------------	--	---	---

〈共通仕様〉	形式	空冷式パッケージ形空調機（高効率型：2015年省エネ基準値以上もしくは、トップランナー等の最高効率型）	付属品・オプション等	〈特記事項〉
		冷暖切替形	室内機	(1) 瞬停対策：瞬時高圧低下や瞬時停電において自動復帰すること。
		＊ルームエアコンの過年エネルギー消費効率（APF）は、最上位機種とする。	・共通：ワイヤードリモコン（図数は表参照）・ドレンアップメカ・遠方操作用端子	(2) 室外機用R6基礎及びベース鉄骨架台は、本工事とする。（ベース鉄骨架台上的機器用鉄骨架台及び配管用架台は、機械設備工事）
能力表示	J1 S案件時		＊ルームエアコン用（壁掛形）は、ワイヤレスリモコン（リモコンホルダー・リモコン紛失防止金具共）とする。	但し、室外機費考慮の ※1 は、設備工事に於てスライド式コンクリートブロックを設置し室外機を据え付ける。
冷暖	R32		・集中管理コントローラーを付属とする。	＊1箇所よりスライド式コンクリートブロック 600 x 120 x 120H x 2本
送風量		風量は参考値（※ノッチ時）、静圧は機外静圧（表中の値は参考とする。）	・カセット形：化粧パネル	(3) 室外機には転倒防止ワイヤー等を設置すること。
フィルター		ロングライフフィルター（質量法 45%以上） ＊ルームエアコン用（壁掛形）は、メーカー標準品とする。	・直天井型設置対応（ACP-B1-2a・ACP-1-1a・ACP-1-4a・ACP-1-5a） カセット形：黒色化粧パネル	(4) 床置形室内機には転倒防止金具を設置すること。
			・床置形（直吹タイプ）：高性能スプリング防振架台（絶縁効率80%以上）共とする。	(5) 電源は50Hzとし、電源容量は参考値とする。
			・天井カセット形及び天吊露出形は吊防塵（スプリング）を設置し、防振吊りを行うこと。	(6) 能力表示及び消費電力は、JIS 8616 に規定された定格条件による。
			室外機	(7) グリーン購入法適合品とする。
			・冷房能力 11, 2KW未満：防振ゴムパット	(8) 予備フィルターは100%を見込むこと。
			・冷房能力 11, 2KW以上：スプリング防振架台	

〈特記事項〉 1. 能力は室内吸込空気乾球温度22℃DB、相対湿度60%RH以下で運転した場合を示す。
 2. 冷媒はR407Cとする。
 3. 各機器の消費電力は参考値とする。
 4. フレキシブルダクト、オプションフィルター、防振架台、
 滴水時停止装置付キャスタワゴン、固定金具他 標準付属品を共にする。
 5. 予備フィルターは100%を見込むこと。

特記事項	<div><div></div><div></div></div>	業務名称 東京大学工学部超高圧電子顕微鏡室改修機械設備設計業務	工事名称 東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修機械設備工事	<div></div> <div>東京大学 The University of Tokyo</div> <div><div><div>佐藤</div><div>青木</div><div>高家</div><div>須田</div></div></div>	
			図面名称 空気調和設備 機器表（1）（改修）	作成年度 令和8年度	縮 尺 — A3
					図面番号 M - 04



《凡例》

——	新設設備・新設ダクト類を示す。
-----	既設設備・既設ダクト類を示す。

概要図

＜注記＞

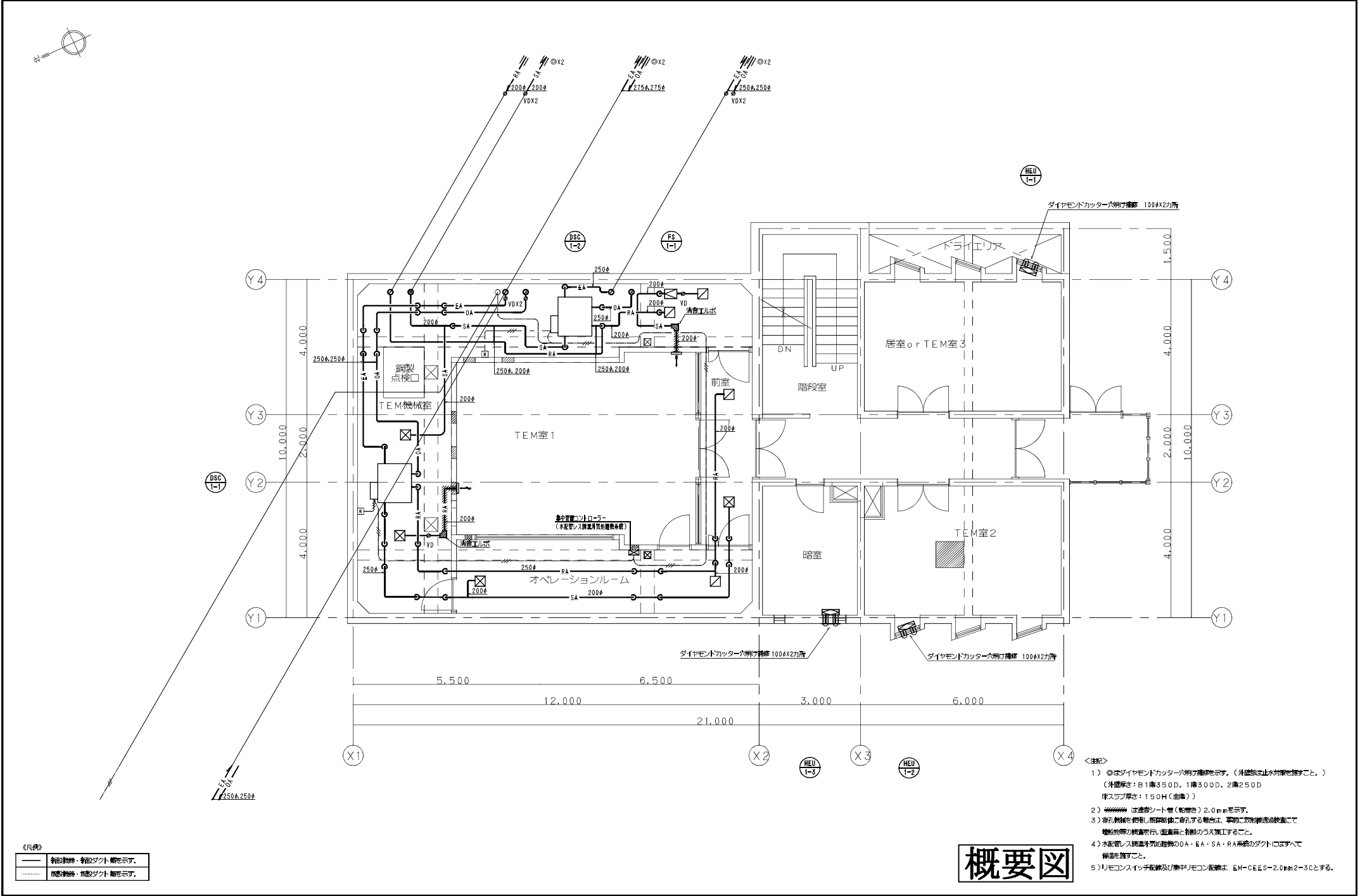
1) ◎はダイヤモンドカッター穴明け補修を示す。(外壁は止水対策を施すこと。)

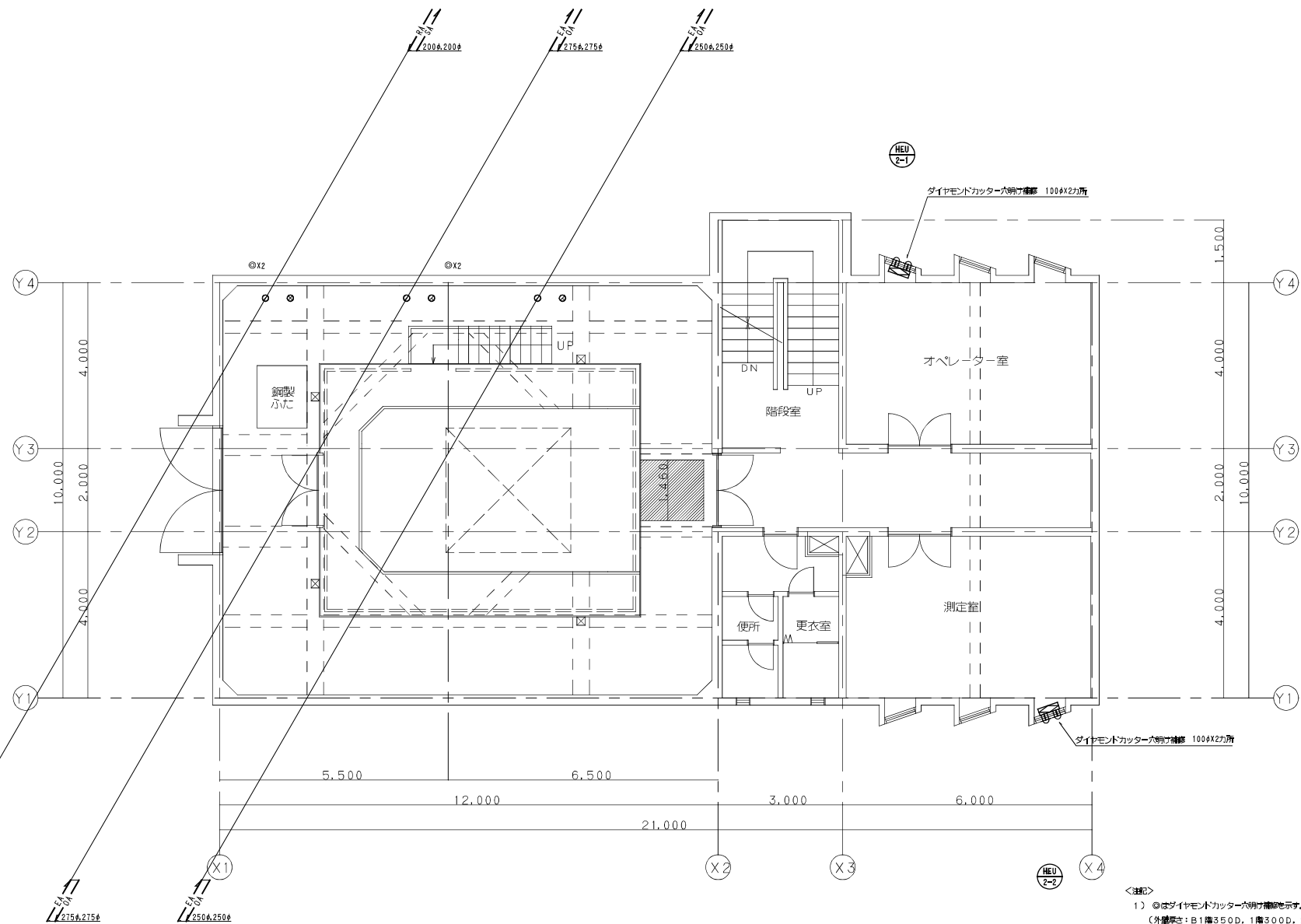
(外壁厚さ：B1階350D、1階300D、2階250D
床スラブ厚さ：150H(全層))

2) 穿孔部材を撤去し既設部材に取替する場合は、事前二次的構造補修計画にて
補修計画等の調査を行い、監査員と協議の上で施工すること。

3) 水配管レス継ぎ外気取替時のOA・EA・SA・RA系統のダクトにはすべて
保潔を施すこと。

4) リモコンスイッチ取替及び照明リモコン取替は、EM-CES-2.0mm2-2-3Cとする。





《凡例》

—	新設機器・新設ダクト 類を示す。
.....	旧設機器・旧設ダクト 類を示す。

特記事項



業務名称
東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称
東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

図面名称	空気調和設備 2階ダクト平面図(改修)
------	---------------------

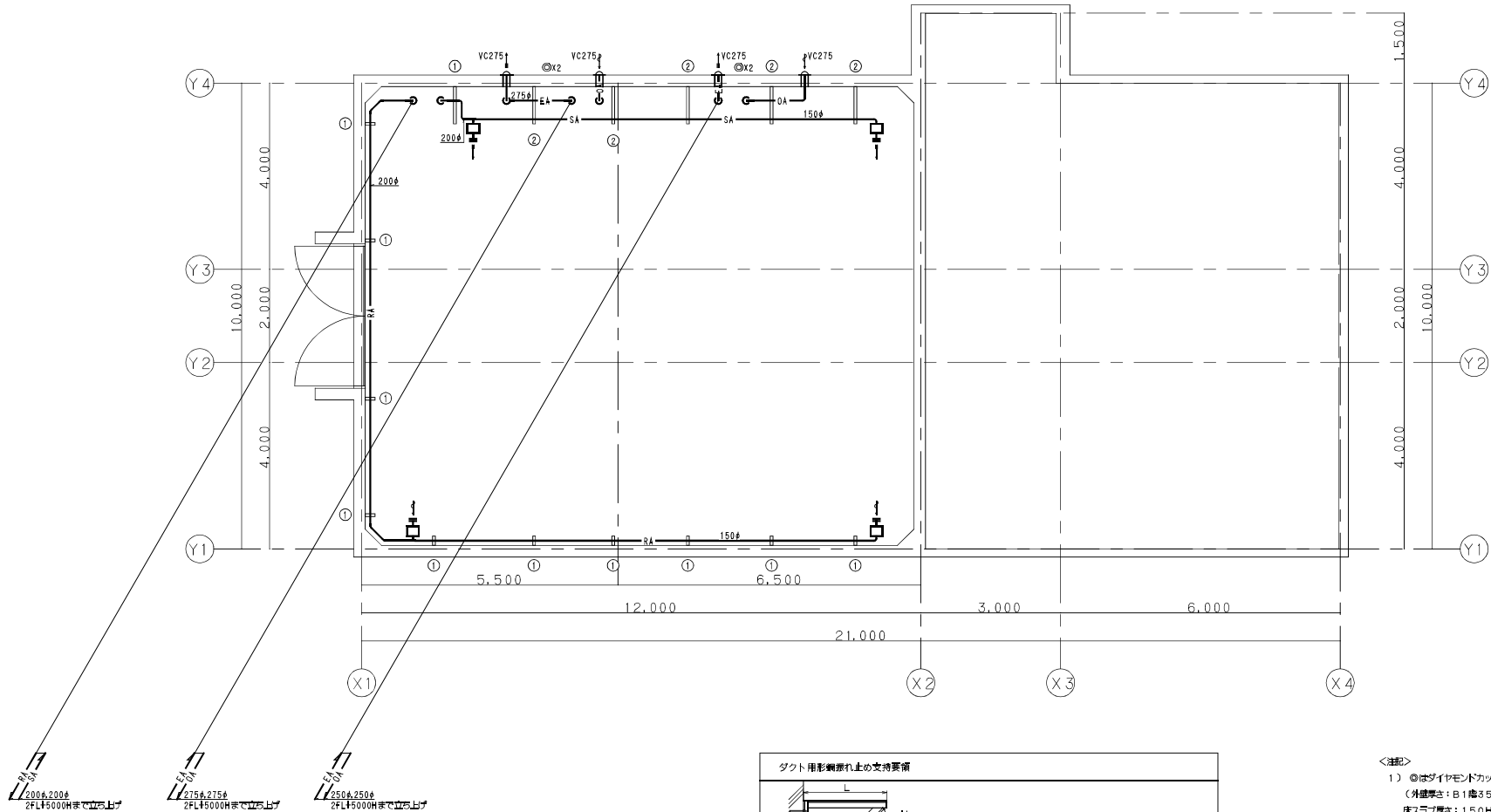


作成年度 令和8年度	縮尺 1/100 A3	図面番号 M-08
---------------	----------------	--------------

概要図

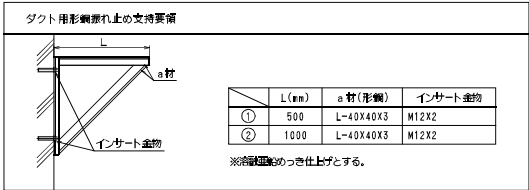
＜注＞

- ②はダイヤモンドカッターの明かりを示す。(外壁面は止水対策を施すこと。)
外壁受口：B1幅350D、1幅300D、2幅250D
床スラブ厚さ：150H(全周)
- 2) 止水材料を使用し既設躯体に穿孔する場合は、事前に設計協議を迅速に実施し
設計の通りを厳重に行い、監査員と相談の上施工すること。
- 3) 止水材を施工し不透水試験のDOA・EA・SA・RA系統のダクト口はすべて
保護を施すこと。



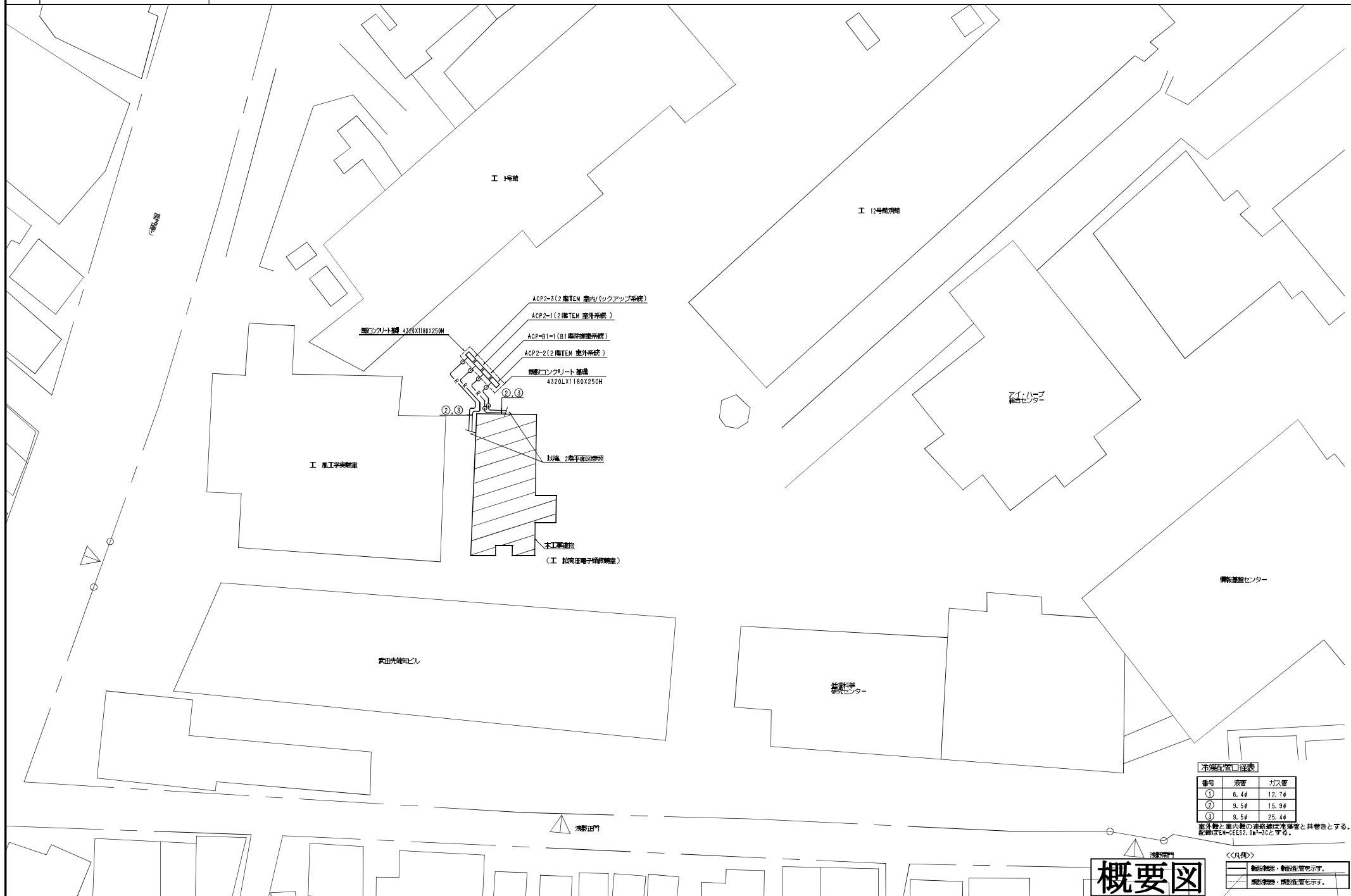
《凡例》

	新設設備・新設ダクト類を示す。
	既設設備・既設ダクト類を示す。



- <注記>
- 1) ◎はダイヤモンドカッターで明け補修を示す。(外壁部は止水対策を要すること。)
(外壁厚さ: B1階350D, 1階300D, 2階250D
床スラブ厚さ: 150H(宙構))
- 2) 穿孔補修を使用し既存躯体に穿孔する場合は、事前に放射線透過検査にて
埋設物等の調査を行い、監理員と相談の上施工すること。
- 3) 水配管レス試験外気取入れのOA・EA・SA・RA系統のダクトにはすべて
保温を要すること。

概要図



番号	液管	ガス管
①	6.4φ	12.7φ
②	9.5φ	15.9φ
③	9.5φ	25.4φ

室外機と室内機の接続線は冷媒管と共管きとする。
配線はEN-CES2.0m²-3Cとする。

<<凡月>>

— 新設機器・新設配管を示す。

[illegible]

概要図

[illegible]

テクノ工営一級建築士事務所



業務名称
東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称
東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

圖面名稱	屋外空調配管圖 (改修)
------	--------------



東京大学

作成年度
令和8年度

須藤 藤室 青木 佐藤

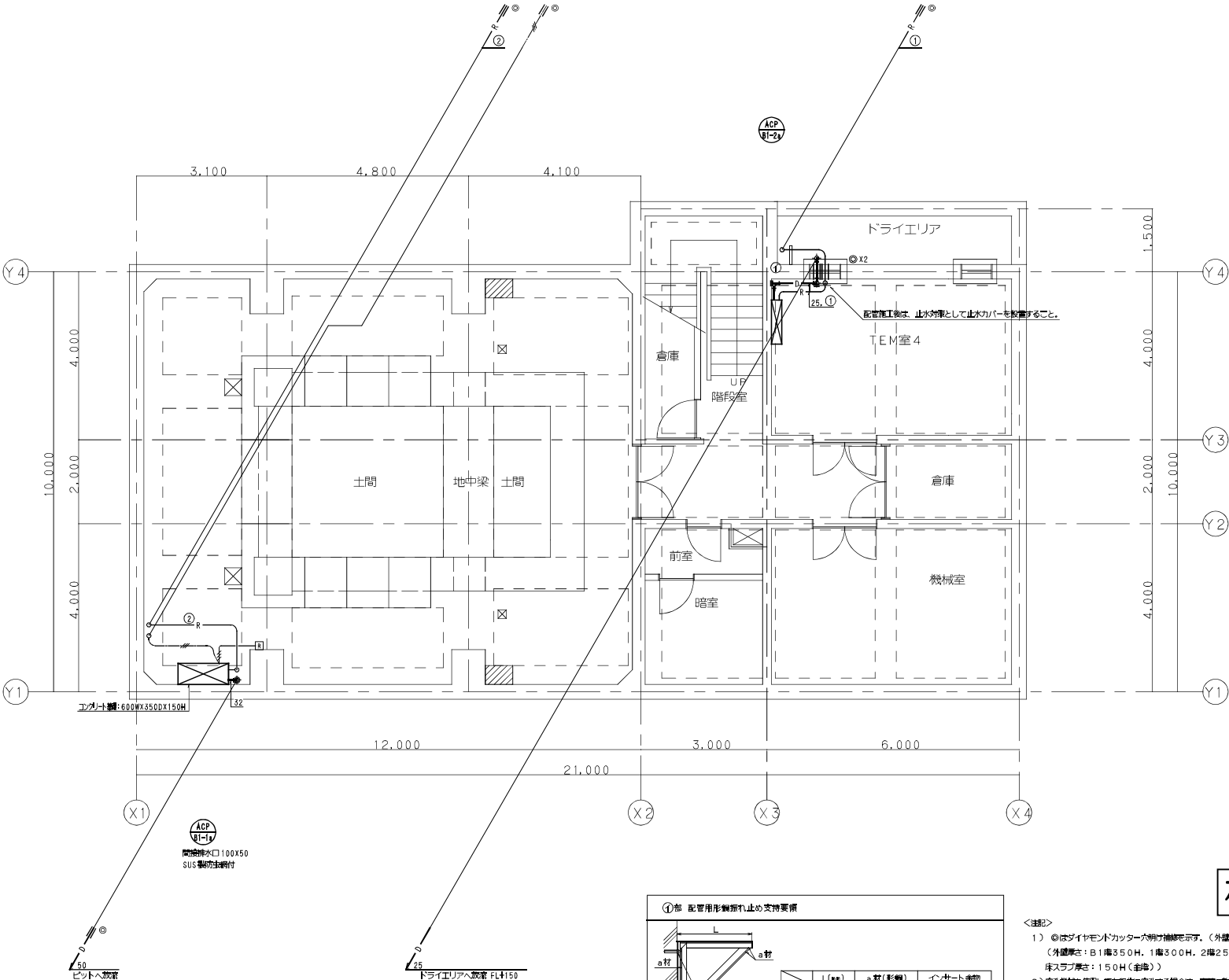
縮尺	図面番号
1/500 A3	M - 10



冷凍配管口径表

番号	液管	ガス管
①	6.4φ	12.7φ
②	9.5φ	15.9φ
③	9.5φ	25.4φ

室外機と室内機の高低差は900mmと共通とする。
配管は11m以下とし、9m以下とする。



《凡例》

—	有効配管・有効配管を示す。
----	有効配管・有効配管を示す。
.....	(有効配管は有効配管とする。)

概要図

《注記》

- ①はダイヤモンドカッターで切り抜く。 (外壁部は止水対策を施すこと。)
(外壁厚さ: B1階350H、1階300H、2階250H
床スラブ厚さ: 150H (主筋))
- 穿孔機を使用し、穿孔機に穿孔する場合は、事前に事前調査検査にて、
穿孔機の設置を行い、進捗と相対的な位置を施工すること。
- 室内のドレン排水はすべてのドレン工事を施工すること。
- 冷凍管の配管には保温材を貼付すること。

①部 配管形状抑制止め支持要領

	L(mm)	a 材(形状)	インサート金物
①	500	L-40X40X5	M12X2

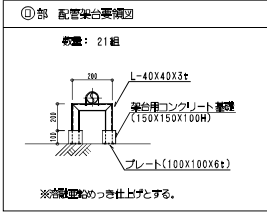
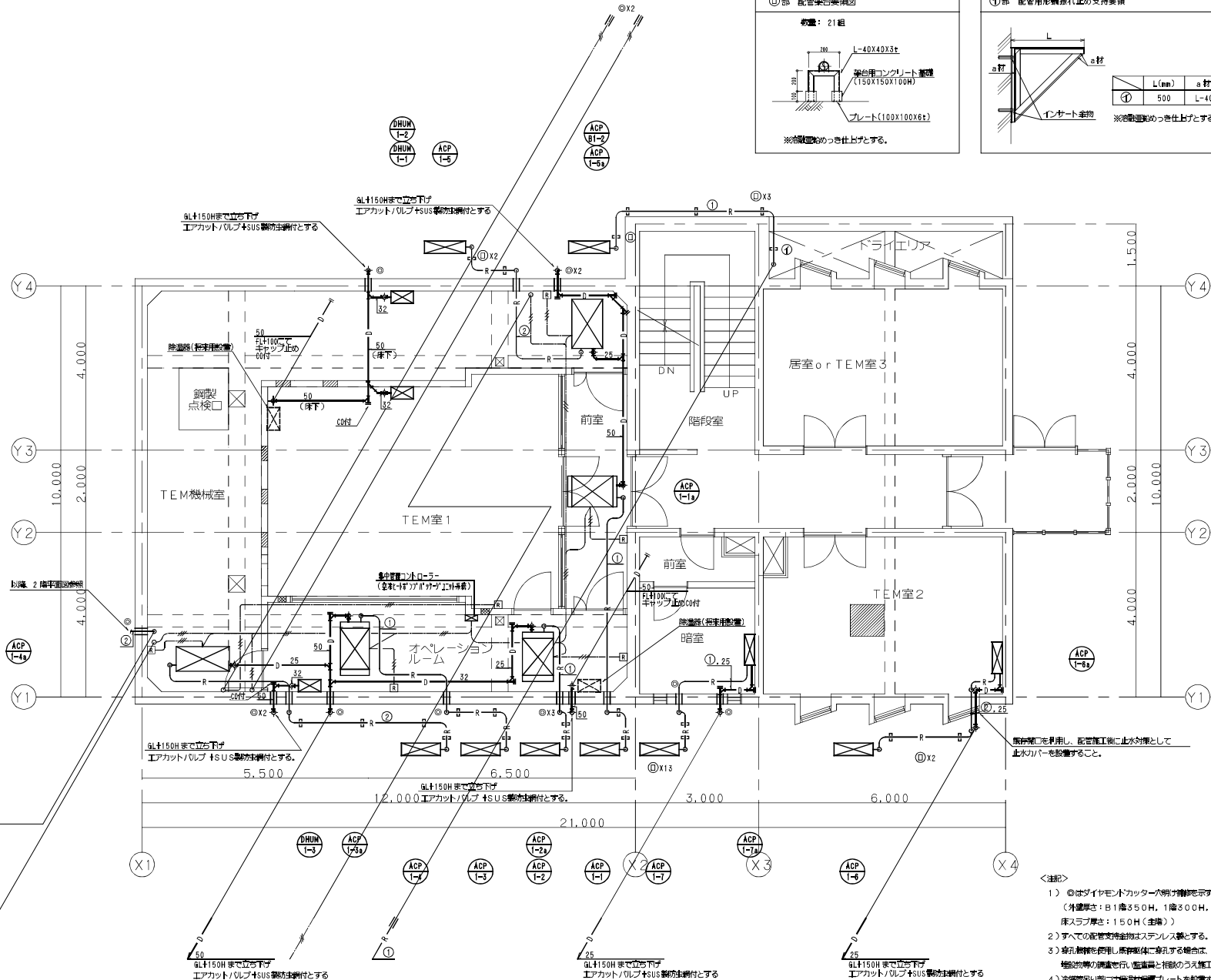
※冷媒配管は、必ず仕上り後、必ず施工すること。



冷凍配管口径表

番号	液管	ガス管
①	6.4φ	12.7φ
②	9.5φ	15.9φ
③	9.5φ	25.4φ

室外機と室内機の高低差は外屋敷と共通とする。
配管はLH-150Hまでとする。



(凡例)

—	新設設備、新設配管を示す。
---	既存設備、既存配管を示す。 (別添にある場合は別添と併用する。)

<注記>

- ① ②はダイヤモンドカッターで明け部を示す。(外壁部は止水対策を要すること。)
(外壁厚さ：B1階350H、1階300H、2階250H
床スラブ厚さ：150H(主軸))
- ③ ④はすべての配管支保金物はステンレス製とする。
- ⑤ ⑥は冷媒配管を使用し、配管本体に溶接する場合は、事前二次防漏試験にて、
施設が等価の試験を行い、監査員と相談の上施工すること。
- ⑦ TEM室1及び、オペレーションルームは、除湿機の排気管として、
ドレン管は接続し、F.L.にてプラグ止めとする。
- ⑧ 除湿機排気管の水管の床立上り前はC0付とする。

概要図

特記事項

テクノエ管 一般建築士事務所



業務名称
東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称
東京大学(本郷)超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

図面名称
空気調和設備 1階空調配管平面図(改修)

作成年度
令和8年度

縮尺
1/100 A3

図面番号
M-12

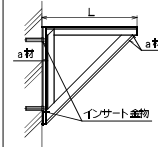


冷凍配管口径表

番号	液管	ガス管
①	6.4φ	12.7φ
②	9.5φ	15.9φ
③	9.5φ	25.4φ

室外機と室内機の高低差は1.5mと共働きとする。
配管は1.5m以上の間隔とする。

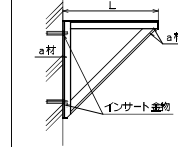
①部 配管用形鋼止め支持要領



	L(mm)	a材(形鋼)	インサート金物
①	500	L-40X40X3	M12X2

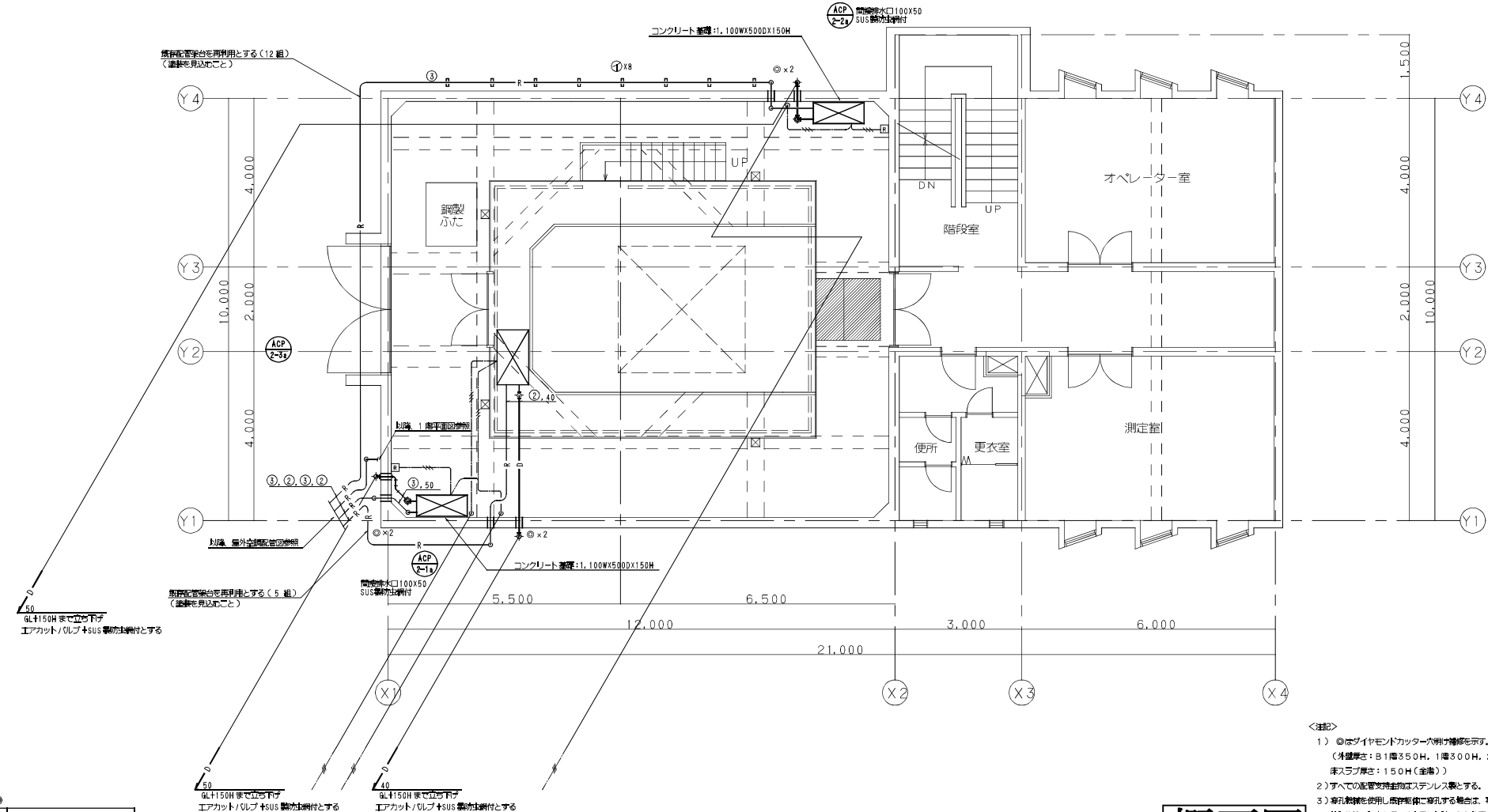
※液管はめっき仕上げとする。

熱源配管架台要領図



	L(mm)	a材(形鋼)	インサート金物
	500	L-40X40X3t	M12X2

※液管はめっき仕上げとする。



<注記>

- ① ②はダイヤモンドカッターで明け補修を示す。(外壁は止水対策を要すること。)
(外壁厚さ: B1階350H, 1階300H, 2階250H
床スラブ厚さ: 150H(全棟))
- 2) すべての配管支持金物はステンレス製とする。
- 3) 穿孔部は、使用し、穿孔部を埋め、事前二次検査を要すること。
穿孔部等の補修を行い、施工員と建築士のうえ施工すること。
- 4) 室内のドレン排水はすべて前室工事を実施すること。
- 5) 冷凍管の配管には、保温材を敷設すること。

概要図

《凡例》

—	有孔部、新設配管を示す。
----	既存部、既設配管を示す。
.....	(変更する場合は別途工事とする。)

特記事項

テクノエース 一級建築士事務所



業務名称

東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称

東京大学(本郷)超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

図面名称

空気調和設備 2階空調配管平面図(改修)



作成年度

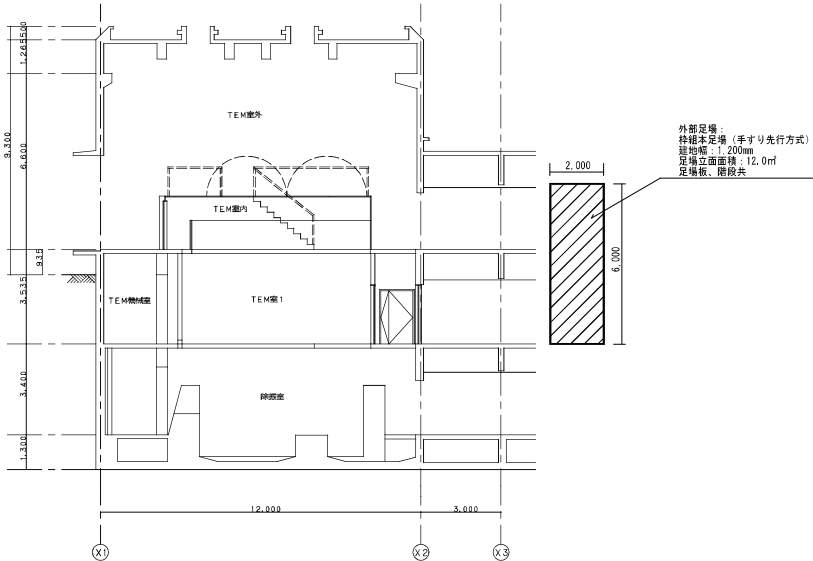
令和8年度

縮尺

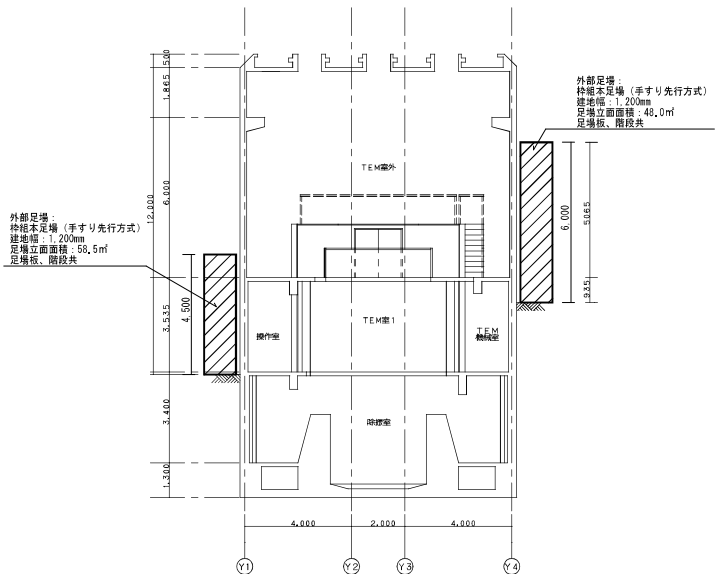
1/100 A3

図面番号

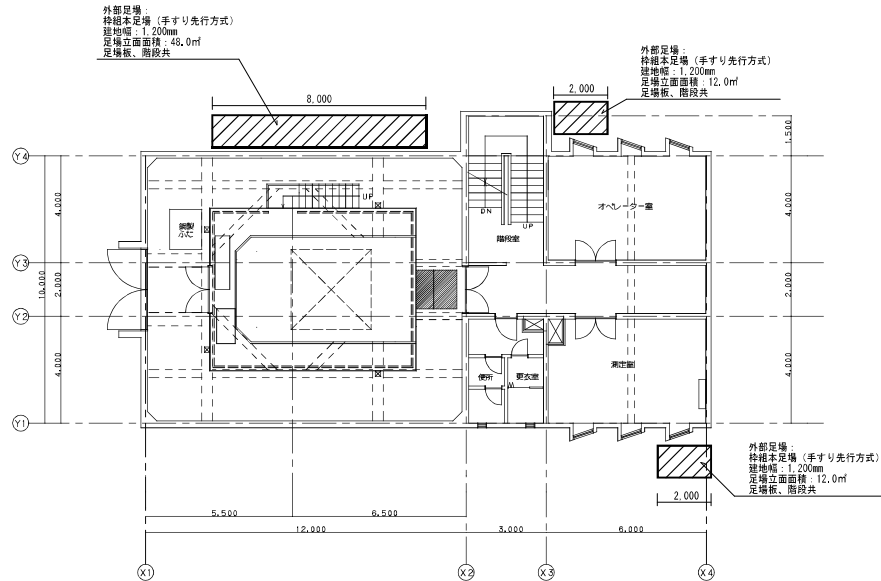
M-13



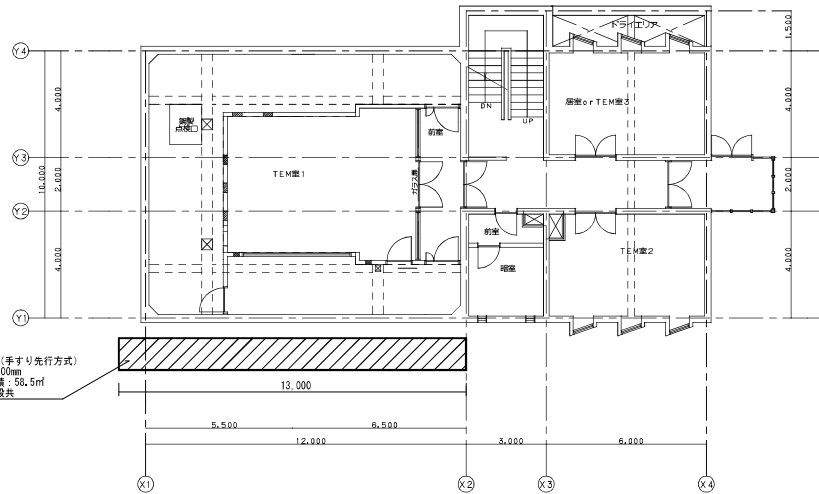
Y軸断面図



X軸断面図



2階平面図



1階平面図

概要図

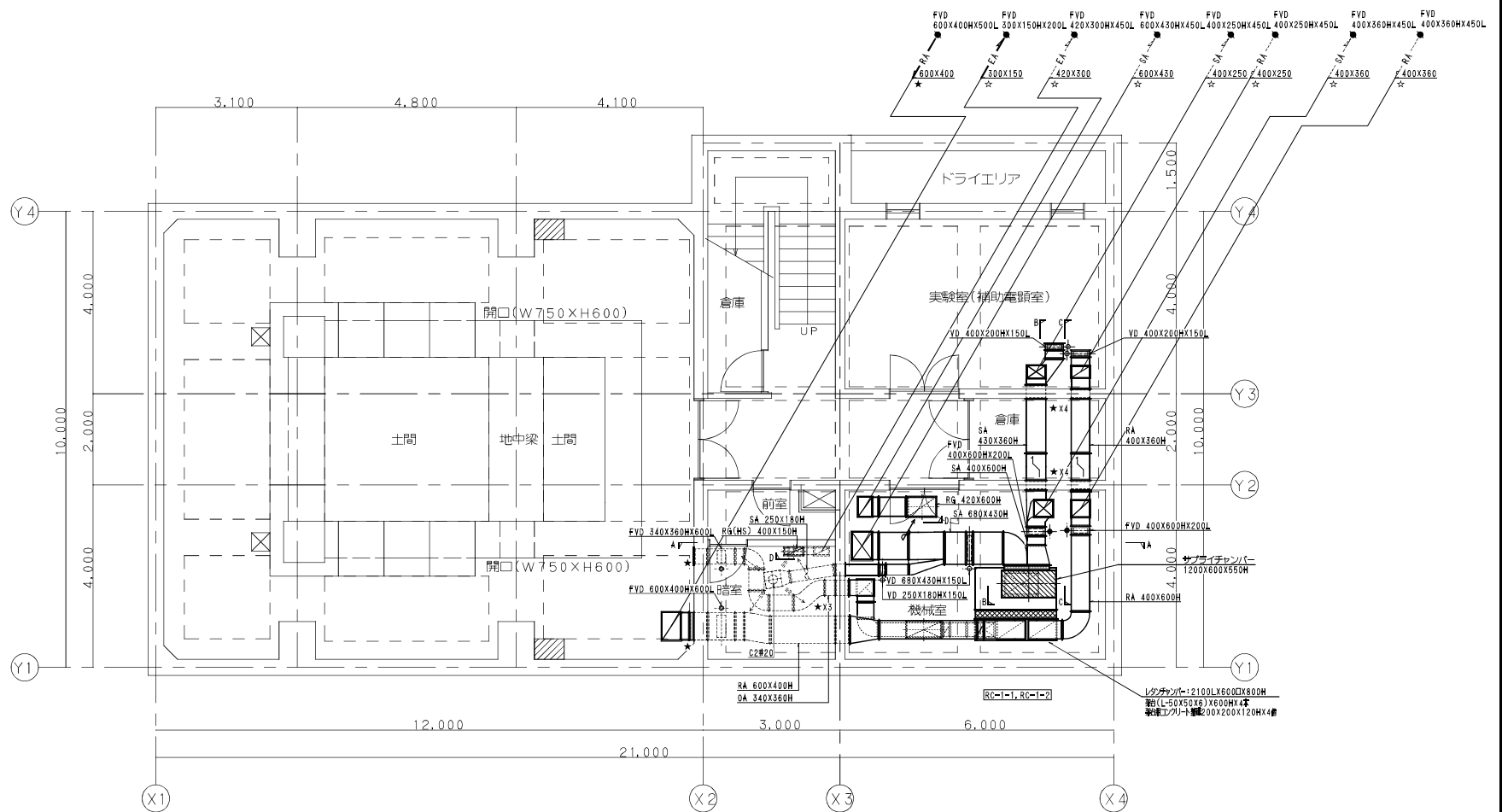
特記事項

<div>テクノエ営 一級建築士事務所</div>	<div>業務名称 東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務</div>	<div>工事名称 東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事</div>	<div>作成年度 令和8年度</div>	<div>縮尺 1/200 A3</div>	<div>図面番号 M-14</div>

[illegible]

概要図

特記事項	<div><div>テクノ</div><div>工務一級建築士事務所</div></div>	業務名称 東京大学工学部超高圧電子顕微鏡室改修機械設備設計業務	工事名称 東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修機械設備工事	<div><div>東京大学</div><div>The University of Tokyo</div></div>	<div><div><input checked="" type="checkbox"/>依頼</div><div><input type="checkbox"/>青木</div><div><input type="checkbox"/>藤巻</div><div><input type="checkbox"/>須崎</div></div>
		図面名称 空気圧と設備 機器表（撤去）	作成年度 令和8年度		



《凡例》

——	業去機端・業去ダクト 類を示す。
*****	邸設機端・邸設ダクト 類を示す。

特記事項

テクノエ営一級建築士事務所



業務名称
東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称
東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事



作成年限

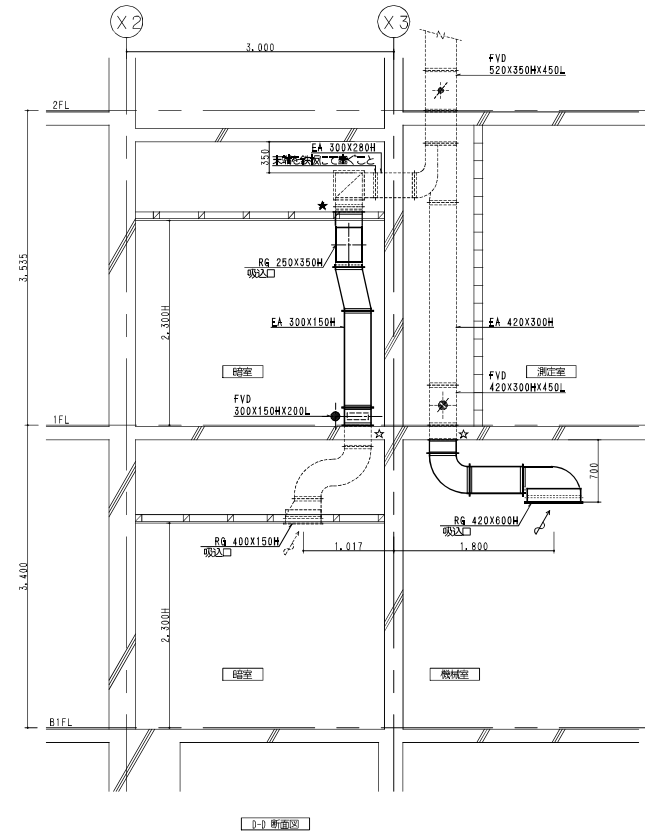
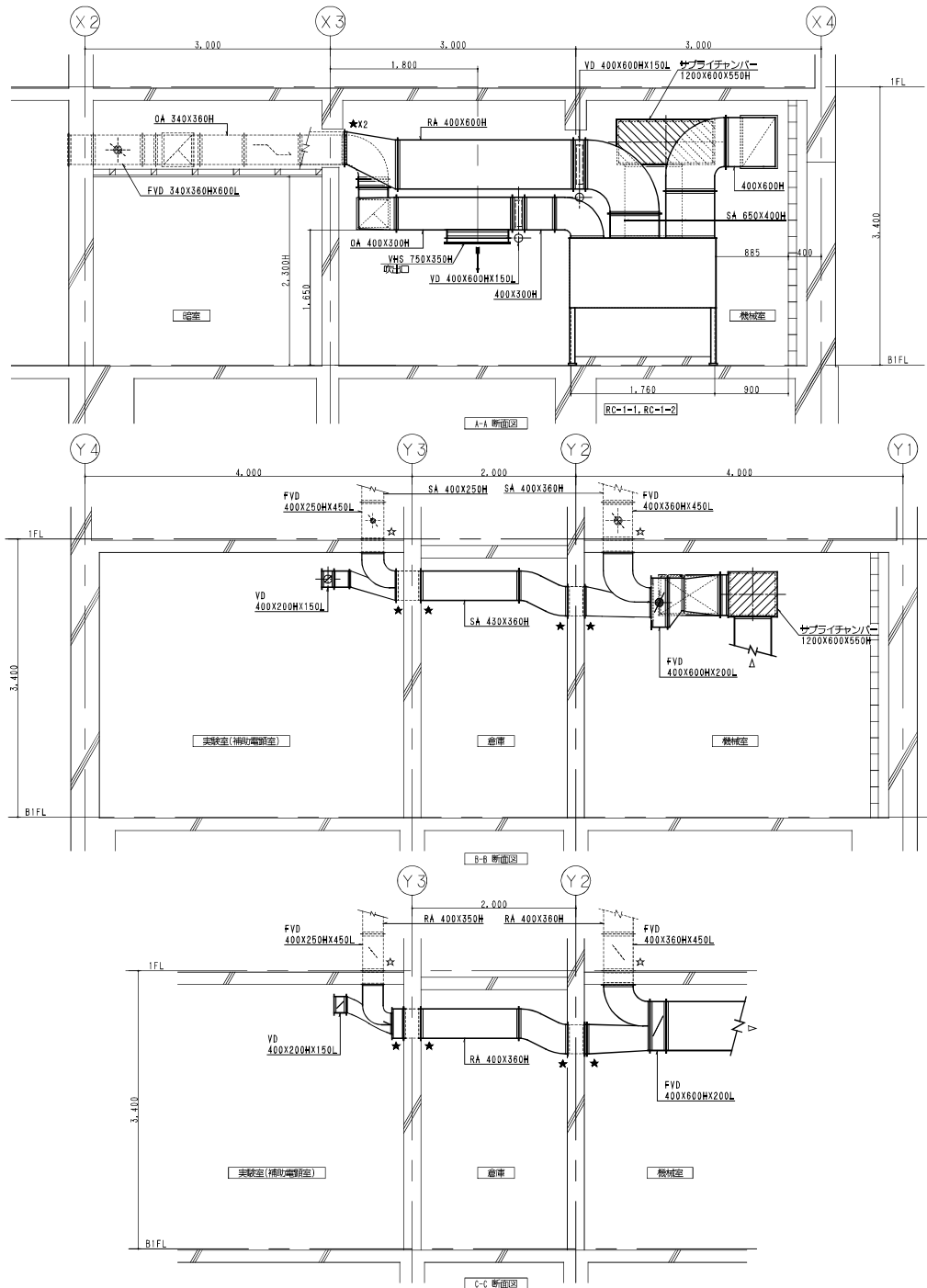
須崎 藤家 青木 佐藤

日 期	星期	天气	温度
-----	----	----	----

概要図

〈注記〉

- 1) 電子顕微鏡装置下部については、ダクト類及び配管類については、すべて除去すること。
- 2) 残存するF・D・F・VDは主として保つること。
- 3) ☆は、ダクト除去後、鉄板(1.6mm以上)にて穴の補修をし、指定色塗装を行うこと。
- 4) ☆は、ダクトを床スラブ下まで撤去し、鉄板(1.6mm以上)にて穴の補修し、指定色塗装を行い、防火区画を形成すること。
- 5) 残存するダクトは、床下を敷くこと。



《凡例》

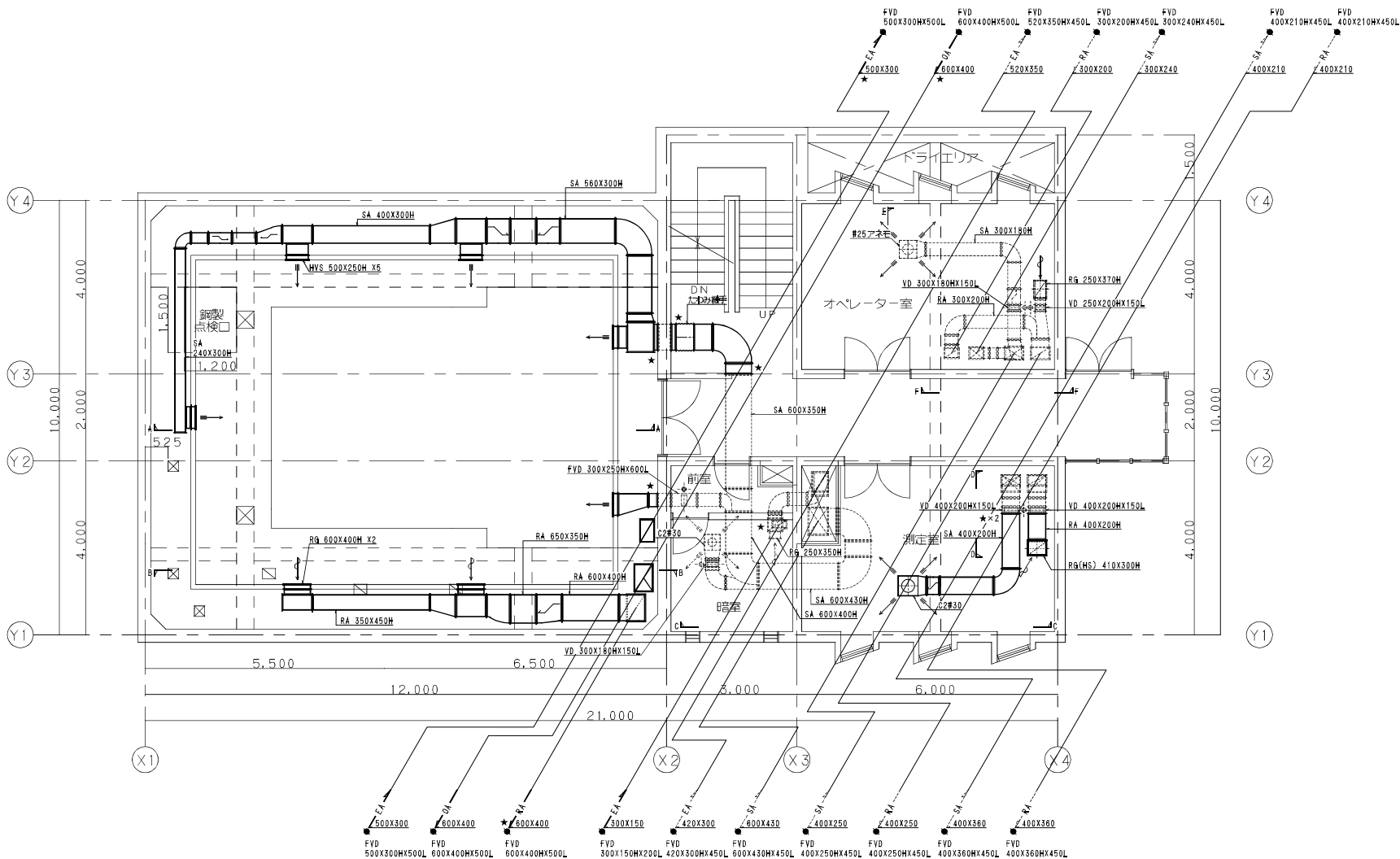
——	実去機器、実去ダクト類を示す。
-----	假設機器、假設ダクト類を示す。

〈注記〉

- 1) 電子制御機器下部については、ダクト・銅及び配管類については、すべて撤去すること。
- 2) 残存するF・D・F・V.Dはすべて撤去すること。
- 3) ＊は、ダクト・銅・鉄板(1.6mm以上)にて穴場の補修をし、指定色塗装を行うこと。
- 4) ＊は、ダクトを床スラップ下まで撤去し、鉄板(1.6mm以上)にて穴場の補修し、指定色塗装を行い、防火区画を形成すること。
- 5) 残存するダクトは、未使用とすること。

概要図

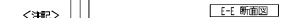






《凡例》	
	撤去設備・撤去ダクト・網を示す。
	残存設備・残存ダクト・網を示す。

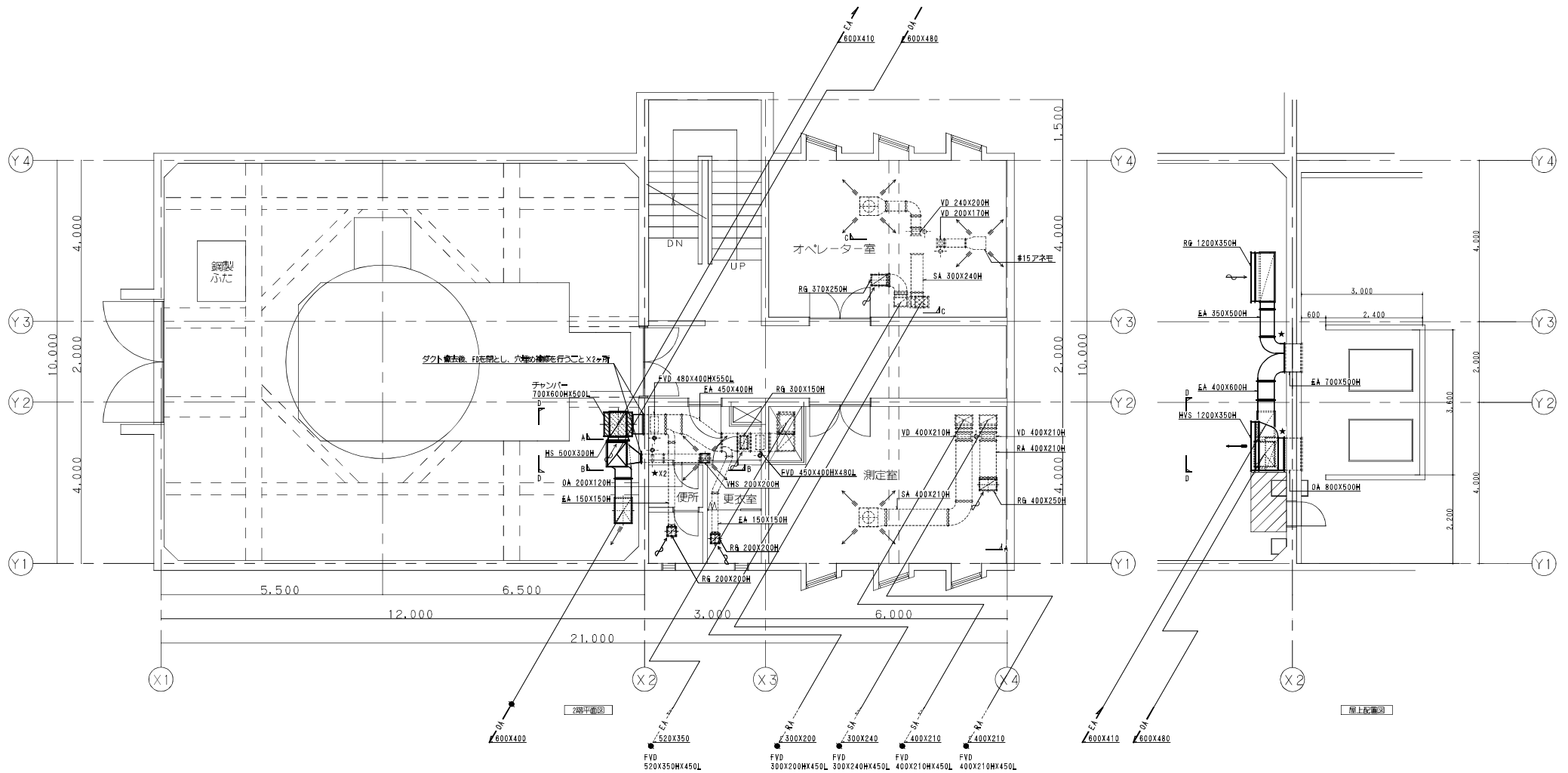
概要図

- ＜注記＞
- 電子顕微鏡室下部については、ダクト網及び配管網については、すべて撤去すること。
 - 残存するF・D・F・VDは全て網とすること。
 - ★は、ダクト撤去後、鉄板（1.6mm以上）にて穴埋め補修をし、電気色塗装を行うこと。
 - ☆は、ダクトを床スラブ下まで撤去し、鉄板（1.6mm以上）にて穴埋め補修し、電気色塗装を行い、防火区画を形成すること。
 - 残存するダクトは、束管を敷くこと。



- ## 概要図








特記事項	<div><div><div>テクノ</div><div>エ営一級建築士事務所</div></div><div></div></div>	業務名称 東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務	工事名称 東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事	<div><div>東京大学 The University of Tokyo</div><div><div>（佐）</div><div>（資）</div><div>（調）</div><div>（須）</div></div></div>
		図面名称 空気環境と降塵 1階ダクト断面図（撤去）	作成年度 令和8年度	箱 尺 1/60 A3 M-19

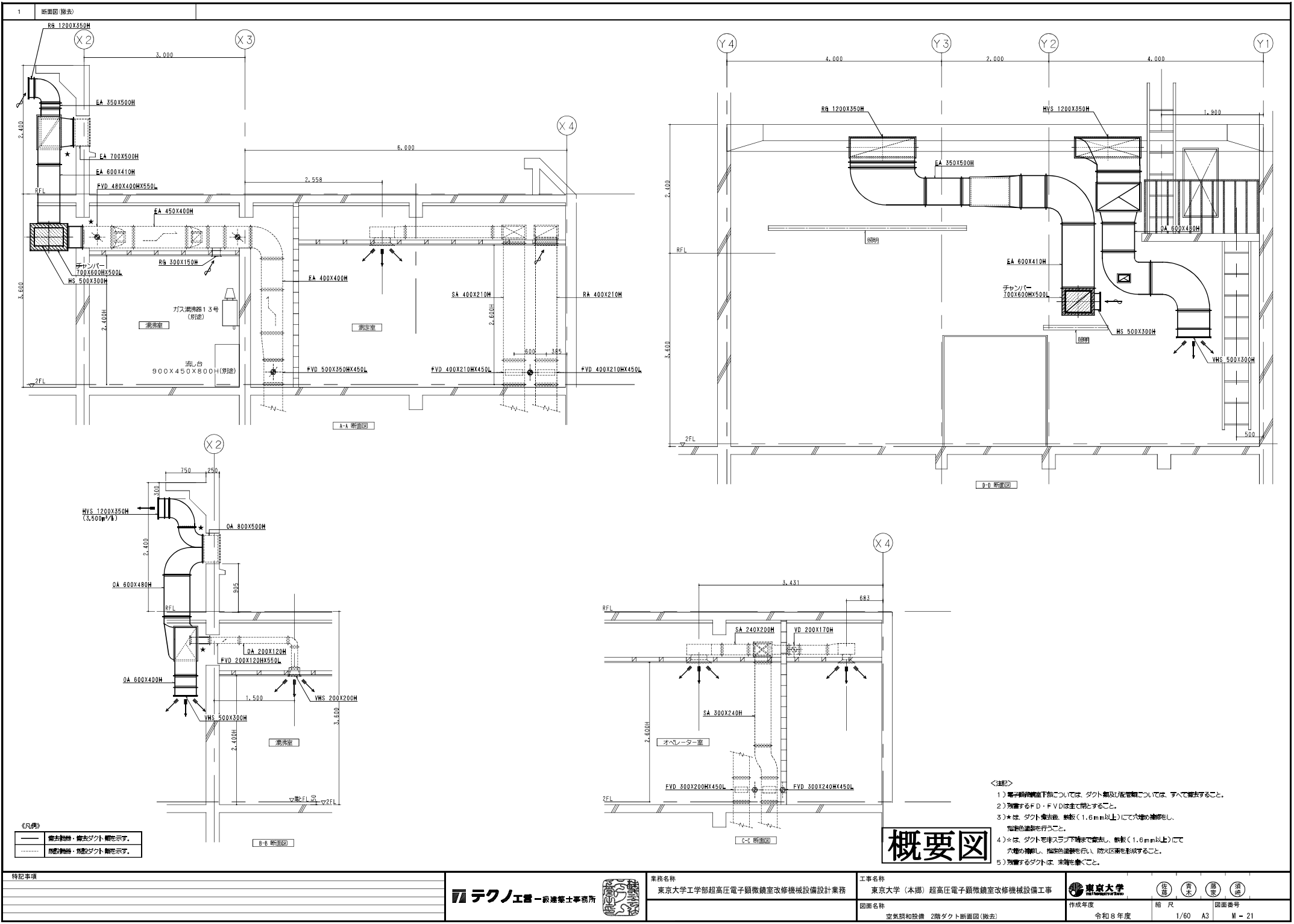


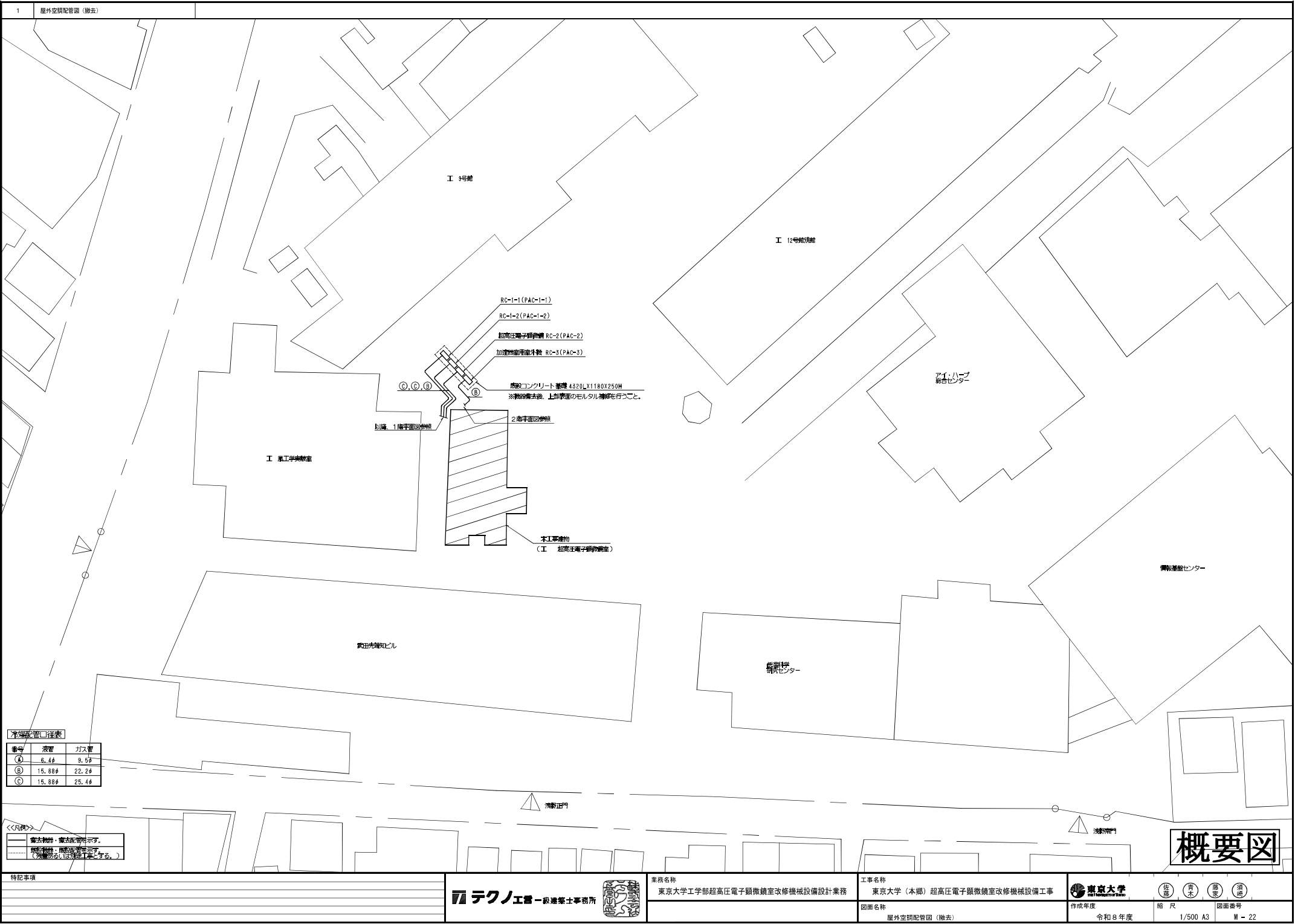
《凡例》	
	撤去箇所・撤去ダクト線を示す。
	設置箇所・設置ダクト線を示す。

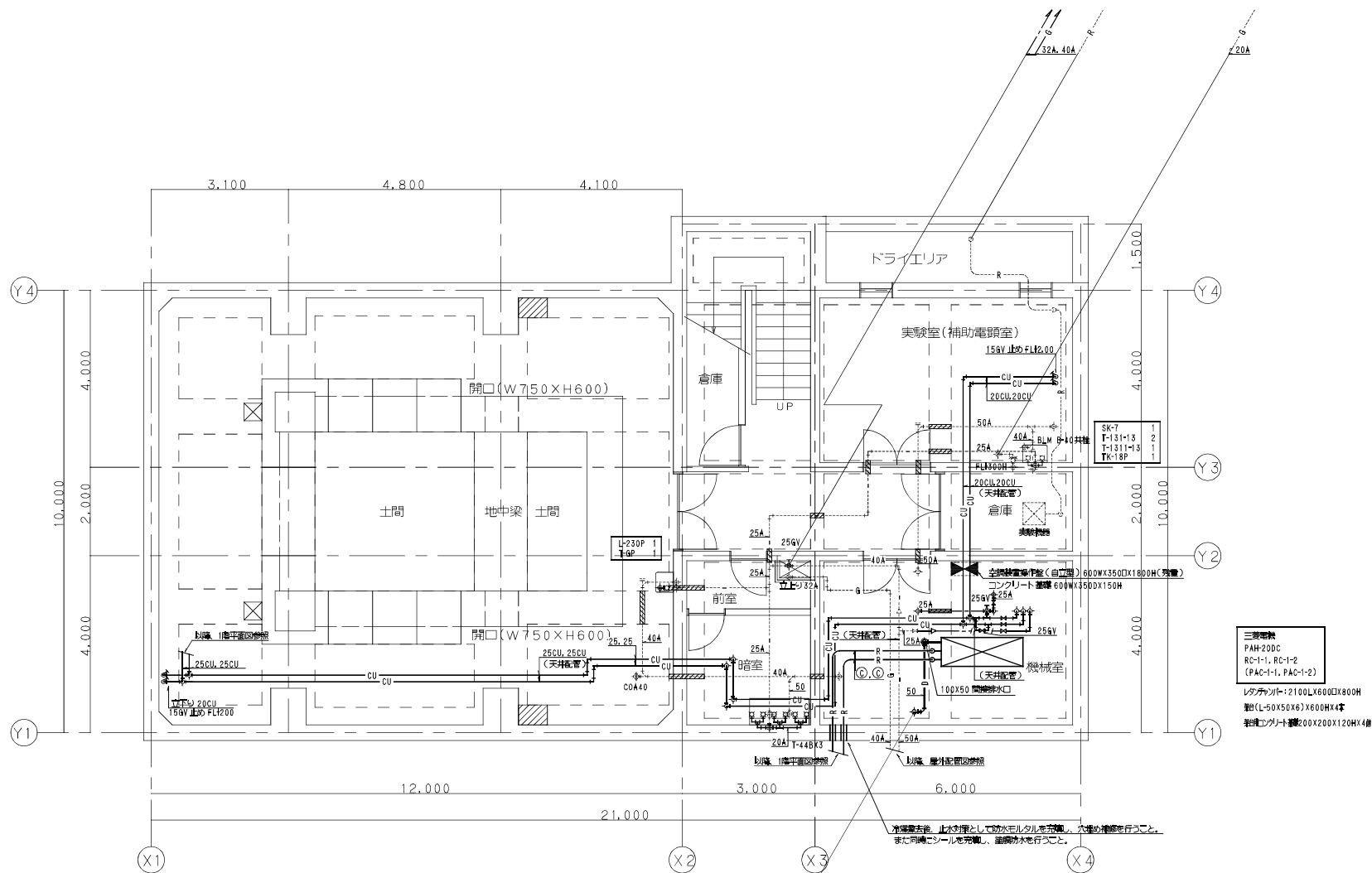
- 【注記】
- 電子顕微鏡下部については、ダクト撤去及び配管については、すべて撤去すること。
 - 設置するFVD・FVDは全て閉とすること。
 - ★は、ダクト撤去後、鉄板（1.6mm以上）にて穴の補修をし、防錆色塗装を行うこと。
 - ※は、ダクトを床スラブ下まで撤去し、鉄板（1.6mm以上）にて穴の補修し、防錆色塗装を行い、防火区画を形成すること。
 - 設置するダクトは、束管を敷くこと。

概要図

特記事項	 テクノ 工芸一級建築士事務所		業務名称	工事名称	 東京大学	 (佐賀)	 (青木)	 (宮城)	 (須成)
			東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務	東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事					
			図面名称	図面番号	作成年度	縮 尺	図面番号		
			空気調和設備 2階ダクト平面図(撤去)		令和8年度	1/100 A3	M - 20		







番号	液管	ガス管
(A)	6.4φ	9.5φ
(B)	15.88φ	22.2φ
(C)	15.88φ	25.4φ

《凡例》

—	除去機器・除去配管を示す。
*****	焼却機器・焼却配管を示す。 (別置あるいは別棟工事とする。)

〈機械設備施工工事概要〉

- 1) 空室ヒートポンプパッケージの検査を行う。
- 2) 空室ヒートポンプパッケージの準備及びヒートポンプの検査を行う。
ヒートポンプ検査は、床スラブの穴の開け締めを行うこと。
- 3) 空室試験準備作業は終了とする。
- 4) 空室ヒートポンプパッケージのヒートレンジタンク及びヒートポンプの検査を行うこと。
- 5) 検査直後、不要のコンクリート基礎の撤去を行うこと。
- 6) 空室検査をする機器と掘削機、ヒートドリモンが居る場合は、リモコン及び
配管の検査を行うこと。
- 7) 検査及び掘削機、配管等については、十分に検査の上、系統等を確認すること。
- 8) 室内の既存配管及び給排水の配管に注意すること。
- 9) 未使用があることを確認後、すべて撤去を行うこと。
- 10) 増設及び配管×6区、床下プラスタットを張り付けを行うこと。
- 11) 配管にはテープを貼る（テープは、（管径、管種）を記入すること。）

概要図

50
スラブ上まで露出し、穴埋の補修を行うこと

特記事項

T テクノエ 第一級建築士事務所



業務名称
東京大学工学部超高圧電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称 東京大学（本郷）超高圧電子顕微鏡室改修機械設備工事

空氣調和設備 地下1階空調配管平面図(撤去)

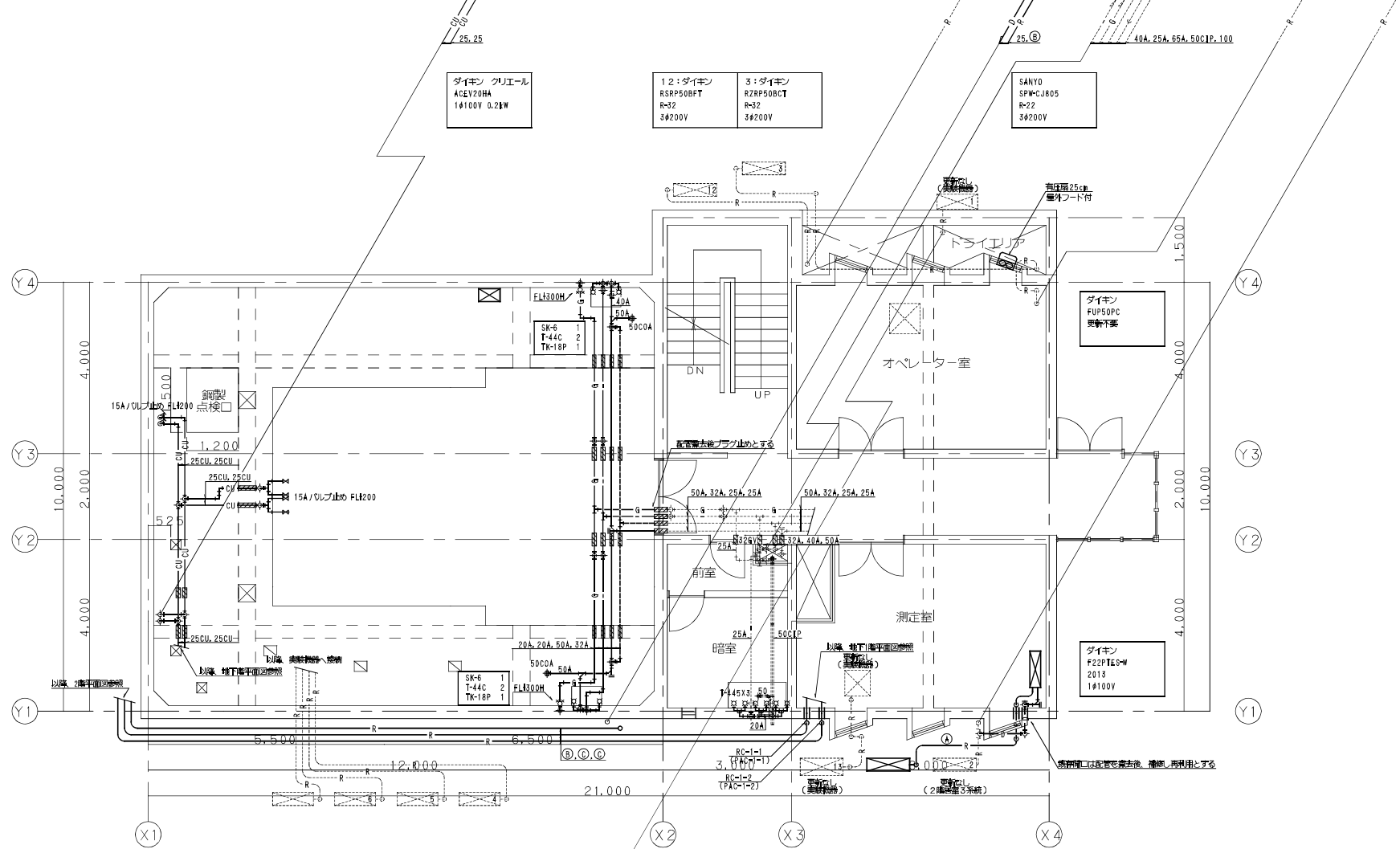


東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

作成年度

須崎 藤家 青木 佐藤

	日	月	年	时	分	秒	毫秒	微秒	纳秒	皮秒	飞秒	阿秒	zepto	yocto
--	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------



冷暖配管口番表		
番号	涼室	ガス室
①	6.4φ	9.5φ
②	15.8φ	22.2φ
③	15.8φ	25.4φ

凡例	
—	撤去範囲・管法配管を示す。
----	撤去範囲・管法配管を示す。
.....	(別添ありは別添工事とする。)

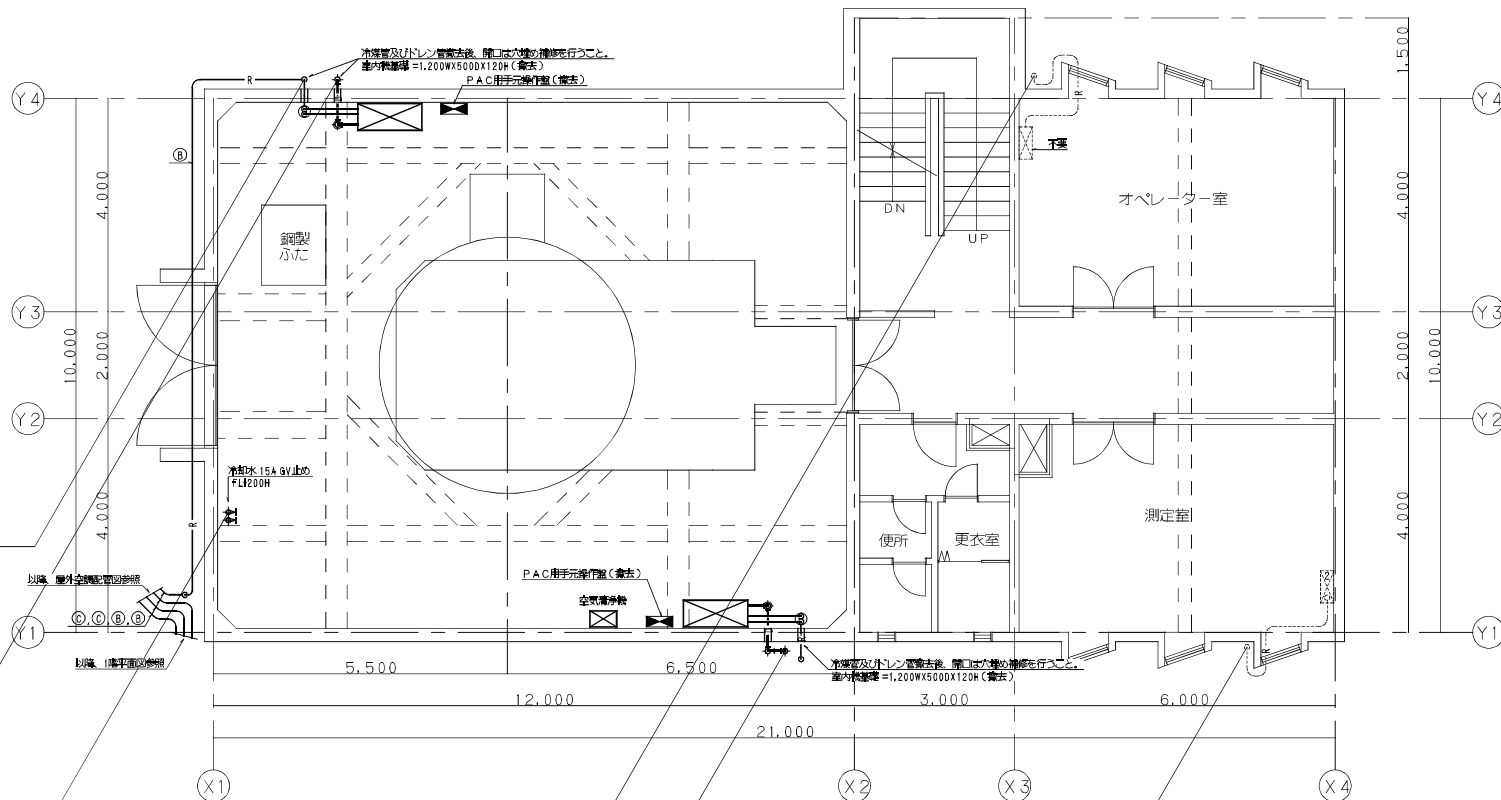
- ＜撤去設備撤去工事概要＞
- 1) 空調ヒートポンプ/クーラーの撤去を行う。
 - 2) 空調ヒートポンプ/クーラーの冷凍管及びドレン管の撤去を行う。
ドレン管撤去後は、床スラブの穴埋めを行うこと。
 - 3) オペレーター室の有圧管(20cm)の撤去を行うこと。
 - 4) ドレン管はGL+150Hまで立ち上げとする。
 - 5) 今回撤去する機器に接続ワイヤードリルモモンがある場合は、リモコン及び配線が撤去を行うこと。
 - 6) 撤去及び撤去配線・配管等については、十分に養生の上、系図等を確認すること。
 - 7) 壁内の配管確認及び配管水の漏れ量確認は、未使用であることを確認後、すべて撤去を行うこと。
 - 8) 撤去後の排水管は、床下プラススタートラップ及び漏出底管はすべて撤去すること。(撤去後、確認を行うこと。)

概要図



三菱電機
PA-10PC
RC-3
(PC-3)

番号	液管	ガス管
(A)	6.4φ	9.5φ
(B)	15.88φ	22.2φ
(C)	15.88φ	25.4φ



2:ダイキン
RSRP45BFT
R-32
新機

《凡例》

—	除去機器・兼去配管を示す。
※※※※※※※※	既設機器・既設配管を示す。 (残置あるいは別途工事とする。)

ダイキン/クリ
ACEV20HA
1φ100V 200W

三井電機
PA-10PC
RC-2
(PAC-2)

概要図

〈燃料設備撤去工事概要〉

- 1) 主機にヒートポンプ/リサイクルの廃棄を行う。
- 2) 主機にヒートポンプ/リサイクルの有害物質及びドレン管の廃棄を行う。
ドレン管廃棄後は、床下及び6号の廃棄を行うこと。
- 3) 半導体製造施設を廃棄すること。
- 4) 今回廃棄をする「熱電2機及びワイヤードリマコがある場合は、リモコン及び基板」の廃棄を行うこと。
- 5) ドレン管はGL+150Hまで立ち上げること。
- 6) 廃棄及び処理施設、器具等について、十分の調査の上、系統等を確認すること。
- 7) 屋外の排水管網及び貯留池への排水は禁止とする。
未排水であることを確認後、すべて廃棄を行うこと。

特記事項

テクノエ 一級建築士事務所



業務名称
東京大学工学部超高压電子顕微鏡室改修機械設備設計業務

工事名称
東京大学（本郷）超高压電子顕微鏡室改修機械設備工事

図面名称	空気調和設備 2階空調配管平面図(撤去)
------	----------------------

 東京大学

作成年度
令和8年

須臾 藤室 青木 佐藤

縮 尺	図面番号
1/100 A3	M - 25

①撤去方法

ア、ダクトの切断に先立ち、飛散防止措置としてダクトフランジ外周部にビニールテープ巻きを施す。

イ、ダクトの切断は、フランジ部の両側100mmの箇所において慎重に行う。

ウ、ダクト片側の切断終了後、フランジ部分の内周部分に外周同様飛散防止措置を施し、もう片方の切断を行う。

②処分方法

ア、撤去したフランジ付きダクトはビニール袋に入れ石綿含有廃棄物であることを表示し、構外搬出適切処分とする。

空調・換気用ダクトフランジ部撤去要領図 S：—

2配管アスベスト撤去要領図

—

アスベスト含有材撤去要領

撤去を行う空調配管及び衛生配管の保温材には石綿含有建材が含まれているため適切な処分を行う。

①撤去方法

ア、粉塵飛散防止剤の散布を行う。

イ、石綿部分を隔離するためポリシート等で養生を行う。

ウ、現場にて石綿が含有していない直管部分を保温材が付いたまま切断する。

エ、アスベスト廃棄専用プラスチック袋で二重梱包する。

②処分方法

ア、撤去したフランジ付き配管はビニール袋に入れ石綿含有廃棄物であることを表示し、構外搬出適切処分とする。

配管撤去要領図 S：—

ダクト数量表（参考）

寸 法	B1F	1F	2F	合計
200 × 120			1	1
240 × 300	6	6		12
250 × 180	3			3
250 × 350				
300 × 150		7		7
300 × 180				
300 × 250		1		1
340 × 360	3			3
350 × 450		2		2
350 × 500			2	2
400 × 150	1			1
400 × 200	3	7		10
400 × 250		2		2
400 × 300	4	3		7
400 × 360	7	2		9
400 × 600	7		4	11
420 × 300	5	1		6
420 × 600	1			1
430 × 360	5			5
480 × 400			2	2
500 × 250		9		9
500 × 300			1	1
500 × 450		2		2
550 × 300	3			3
560 × 300		9		9
600 × 350		4		4
600 × 400	2	9	3	14
600 × 430	2			2
600 × 480			8	8
650 × 350		2		2
660 × 250	1			1
680 × 430	4			4
700 × 500			1	1
800 × 500			1	1
1100 × 450	3			3
1200 × 350	2		2	4

配管数量表（参考）

管 種	サイズ	B1F	1F	2F	合計
冷温水管	100A	5			5
冷却水管	50A	10	10		20
給水管	20A	5			5

概要図